

授業科目	仏教学研究基礎1（春期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	南 宏信			シラバスグループ	BD0219
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	浄土学の基礎ならびに研究の回顧と展望
---------	--------------------

■授業の概要	専門的に浄土学、および法然浄土教の研究を進めるにあたって把握しておくべき事柄について講義する。 具体的には以下の通り。 ・浄土教の教理・歴史・術語 ・浄土教の研究領域、研究方法、研究対象となる文献 ・浄土教研究史の回顧と展望 ・大乘仏教、中国・日本仏教それぞれの教義・教理史と、浄土教や法然との関係性
--------	--

■授業の目的・ねらい	授業の目的は以下の通り 1) 浄土教の基礎概念と教理史の把握できるようになる。 2) 浄土学、法然浄土教の研究史について理解できるようになる。 3) 浄土学研究における課題を指摘できるようになる。 以上の目的を達成することを、自身の研究の進展につなげていくことをねらいとする。
------------	---

■到達目標	1) 浄土教の基礎概念と教理史を把握している。 2) 浄土学、法然浄土教の研究史について理解している。 3) 浄土学研究における課題を指摘できる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	100	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	仏教学研究基礎2（春期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	加藤 弘孝			シラバスグループ	BD0319
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	中国仏教学の方法論
---------	-----------

■授業の概要	現在では仏教学の研究分野はインド・中国・日本など地域によって細分化されている。ただいずれの分野であってもそれぞれの言語・文化的背景に関わる知識の習得が不可欠であるのは言を俟たない。本講義では中国仏教研究と中国学との関わりを、隋唐仏教・浄土教研究の事例を挙げながら解説する。仏教学の一類型を学習することによって、他分野（インド・日本）の方法論を相対化する思考を学んでいく。
--------	---

■授業の目的・ねらい	中国仏教学の研究手法を学習することによって、自らのあるいは他の研究分野ではどのような言語・文化的背景を学ぶ必要があるのか、相対化し把握できるようにする。
------------	--

■到達目標	中国仏教研究の方法論を踏まえた上で、自身の専門領域における具体的な方法論を提示できるようになる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	60%	
・授業内発表	40%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	仏教学研究基礎3（春期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	大西 磨希子			シラバスグループ	BD0419
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	研究史を学ぶ
---------	--------

■授業の概要	各自が論文を作成する際には、先行研究をふまえること、また先行研究を批判的に読み、問題の所在を明らかにすることが求められます。そこで本授業では、研究史をまとめた文章を教材として使用し、そこに参考文献として掲載されている学術論文の中から受講生が各自一篇を選び、図書館で検索・入手し、内容を読解したうえで、資料解釈の妥当性や論理性の検討について議論する形で授業を進めていきます。
--------	--

■授業の目的・ねらい	研究論文を批判的に読み、引用されている文献資料や作品の所在を自ら探し出し、議論の材料とすることにより、研究を推し進めるうえで必要な基礎知識の習得を目指します。
------------	---

■到達目標	①論文を検索・入手できる ②論文を批判的に読むことができる ③論文に引用されている文献資料を検索・入手できる ④先行研究の読解から、論点を整理し、問題の所在を明らかにすることができる
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	50%	
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	50%	
・その他	0%	

授業科目	法然教学演習1（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	齋藤 蒙光			シラバスグループ	BD2129
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	『選択本願念仏集』第八・九（三心・四修）章を読む
---------	--------------------------

■授業の概要	法然(1133～1212)の主著『選択本願念仏集』第八章および第九章を講読しながら、法然の専修念仏の立場の理解を深めます。その際、受講生が次の諸点を事前に整理しておくことを前提とします。 （１）関連文献の紹介、（２）『選択集』撰述の経緯、（３）『選択集』の構造と概要、（４）浄土三部経、特に『無量寿経』冒頭の内容、（５）法然への評価、（６）法然の「偏依善導一師」という立場、（７）浄土宗を開く必要性 授業では、受講生が漢文の訓読、現代語訳を提供し、皆で質疑応答を行うこととします。 担当者が交代する区切りごとに、訓読を全員で音読し、意味を確認します。
--------	---

■授業の目的・ねらい	（１）法然の選択本願念仏思想を、その心構えと行法とともに理解する。 （２）法然の『選択集』の漢文を読み、読解力をつける。 （３）『選択集』において一貫している聖典解釈法を理解する。 （４）「授業の概要」に示した七つの項目の理解を深める。
------------	--

■到達目標	（１）「授業の概要」で示した七項目を理解し、他者に説明できる （２）『選択集』第八章に展開された三心論の概要がわかる。 （３）『選択集』第九章に見られる四修論の概要がわかる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	20	
・レポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	80	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	法然教学演習 2 (秋期 (大学院))A クラス_対面			単位	2.0
担当者	本庄 良文			シラバスグループ	BD2239
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	『選択本願念仏集』第三・第七章を読む
---------	--------------------

■授業の概要	法然(1133～1212)の主著『選択本願念仏集』第三章および第七章を講読しながら、法然の専修念仏の立場の理解を深めます。その際、受講生が次の諸点を事前に整理しておくことを前提とします。 (1) 関連文献の紹介、(2) 『選択集』撰述の経緯、(3) 『選択集』の構造と概要、(4) 浄土三部経、特に『無量寿経』冒頭の内容、(5) 同時代における法然への評価、(6) 法然の「偏依善導一師」という立場、(7) 浄土宗を開く必要性 授業では、受講生が漢文の訓読、現代語訳を提供し、皆で質疑応答を行うこととします。 注意を必要とする箇所では訓読を全員で音読し、意味を確認します。
--------	--

■授業の目的・ねらい	(1) 法然の選択本願念仏思想と光明思想を理解する。 (2) 法然の『選択集』の漢文を読み、読解力をつける。 (3) 『選択集』において一貫している聖典解釈法を理解する。 (4) 「授業の概要」に示した七つの項目の理解を深める。
------------	--

■到達目標	(1) 「授業の概要」で示した七項目を、資料を参考に説明できる (2) 『選択集』第三章に展開された選択本願念仏思想の概要を、資料を参考に説明できる。 (3) 『選択集』第七章に見られる法然の光明思想の概要を資料を参考に説明できる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	20	
・レポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	80	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	浄土教学演習1（春期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	曾和 義宏			シラバスグループ	BD2319
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	浄影寺慧遠『観経義疏』の講読。
---------	-----------------

■授業の概要	浄影寺慧遠（523-592）は、地論宗南道派の僧とされるが、浄土教に対する学識ならびに影響力も非常に大きく、中国仏教の歴史に於いて初めて『無量寿経』と『観無量寿経』の注釈を施した。その注釈内容は、後に善導による批判の対象となったが、中国浄土教の教理形成に与えた影響も非常に大きい。 本講義では、浄影寺慧遠『観経義疏』を講読しながら、『観経』本文と対照させた会本を作成することで、浄影寺慧遠の『観経』解釈を理解する。あわせて善導『観経疏』との比較も行う。
--------	--

■授業の目的・ねらい	1. 漢文文献の読解。 2. 被注釈文献と注釈文献を対照させながら読解する方法を学ぶこと。 3. 善導浄土教との相違点を把握すること。
------------	--

■到達目標	1. 『観経』と浄影寺慧遠『観経義疏』とを対照させた会本を作成できる。 2. 浄影寺慧遠の『観経』解釈の特徴について説明できる。 3. 浄影寺慧遠の解釈について、善導が批判した点と受容した点について指摘できる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	100%	
・レポート試験(SR 履修)	0%	レポート試験にて実施する。
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	浄土教学演習2（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	市川 定敬			シラバスグループ	BD2429
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	『逆修説法』（四～六七日）を読む
---------	------------------

■授業の概要	『逆修説法』は、安楽房遵西の父である中原師秀の請いにより行われた七七日の説法の記録である。法然浄土教の教義体系は『選択集』に結実するが、時期的にも内容的にもその前段階に位置づけられる。『選択集』ではあまり触れられない事柄についての説示が見られ、法然浄土教を理解する上で重要視される文献である。本講義では、この『逆修説法』（四～六七日）を講読し法然浄土教への理解を深める。
--------	---

■授業の目的・ねらい	①漢文の読み下しに、とにかく慣れる。 ②法然遺文に見られる用語に慣れる。 ③『選択集』のみでは触れることのできない議論に触れ、法然教学について幅広く理解する。
------------	---

■到達目標	①漢文および仏教文献（1次資料）を各々が読みこなせるようになる。 ②『選択集』では触れられない法然浄土教の教理について理解し、説明できる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	100%	
・レポート試験(SR 履修)	0%	レポート試験にて実施する
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	仏教学演習 1 (春期 (大学院))A クラス_対面			単位	2.0
担当者	細田 典明			シラバスグループ	BD2519
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	「仏教が誕生した当時の教えとは」をテーマとした講義と修士論文の作成方法
---------	-------------------------------------

■授業の概要	最古の経典『スッタニパータ』に説かれるゴータマ・ブッダの教えを具体的に読みながら、仏教が誕生した当時の教えとは何であったのか、資料を客観的に考察し、実際に説かれたであろう説示内容を読み取る。この講義に併せて、修士論文を作成する過程を実習してもらう。特に、論文作成のための必要な点である①研究史のまとめ②原典資料の扱い方③論文の構成などについて理解してもらい、自ら修士論文を作成することができるようにする。仏教のどの分野にも適応できるように演習を進める。
--------	--

■授業の目的・ねらい	具体的な課題を演習しながら、修士論文を作成するために必要な点は何であるのか、どのような過程を経るのか、どのように論文を構成するのかなど修士論文作成に資することを理解してもらうことが目的である。
------------	--

■到達目標	修士論文の作成方法を理解し、各自が自ら作成できる能力を身につけてもらうようにすること。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	100%	
・レポート試験(SR 履修)	0%	レポート試験にて実施する
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	仏教学演習 2 (夏期 (大学院))A クラス_対面			単位	2.0
担当者	細田 典明			シラバスグループ	BD2629
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	『ダンマパダ』講読と修士論文の作成方法
---------	---------------------

■授業の概要	パーリ語『ダンマパダ』は仏教の代表的な経典であり、漢訳『法句経』、サンスクリット『ウダーナ・ヴァルガ』やブラークリット『ダルマパダ』等の他の部派による伝承がある。 また、ウパニシャッドや叙事詩、ジャイナ教聖典に並行句が知られる。 これらの伝承や並行句を参照して、その内容を中村元訳『真理のことは・感興のことは』(岩波文庫)で講読する。 また、論文作成のための必要な 3 点: ①研究史のまとめ②原典資料の扱い方③論文の構成 について理解し、自ら修士論文を作成することができるようにする。 仏教のどの分野にも適応できるように演習を進める。
--------	---

■授業の目的・ねらい	『ダンマパダ』は、出家・在家を問わず、最も広く読まれている初期仏典であり、更に、中国・西洋の古典に類似した内容が見られる。その内容を正確に理解し、仏教の普遍的意義に気付く。 また、具体的な課題を講読しながら、修士論文を作成するために必要な点は何であるのか、どのような過程を経るのか、どのように論文を構成するのかなど修士論文作成に資することを理解してもらうことが目的である。
------------	---

■到達目標	講読した『ダンマパダ』の内容について正しく説明できる。 修士論文の作成方法を理解し、各自が自ら作成できる能力を身につける。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	60%	
・レポート試験(SR 履修)	0%	レポート試験にて実施する
・授業内発表	20%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	20%	
・その他	0%	

授業科目	仏教学演習 3 (夏期 (大学院))A クラス_対面			単位	2.0
担当者	松田 和信			シラバスグループ	BD2729
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	サンスクリット語大乘仏教文献読解（大乘經典を中心に）
---------	----------------------------

■授業の概要	インドの大乘仏教を解明するための文献は専らサンスクリット語で記されている。この演習では、インドにおける大乘仏教文献の成立と展開について講義した上で、サンスクリット語文法を学び、般若経、維摩経、阿弥陀経等のサンスクリット語で記された大乘經典の中から、初心者にも読解可能な段落を取り上げてサンスクリット語原典を読み、論文作成のための文献読解力を養う。
--------	---

■授業の目的・ねらい	インド仏教研究に必要不可欠なサンスクリット語原典を読む能力を身につけ、受講生が独自に大乘經典を中心とするインド仏教文献を読むための基礎的知識を養う。
------------	--

■到達目標	大乘經典の知識とインド仏教文献を読むための語学力取得。
-------	-----------------------------

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	100	
・レポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	仏教学演習 4（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	松田 和信			シラバスグループ	BD2829
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	サンスクリット語大乘仏教文献読解（大乘論典を中心に）
---------	----------------------------

■授業の概要	インドの大乘仏教を解明するための文献は専らサンスクリット語で記されている。この演習では、インドにおける大乘仏教の論典（哲学文献）について講義した上で、サンスクリット語文法を簡単に再確認し、龍樹の中論、世親の唯識三十論、中辺分別論釈等のサンスクリット語で記された大乘論典の中から、初心者にも読解可能な段落を取り上げてサンスクリット語原典を読み、論文作成のための文献読解力を養う。
--------	--

■授業の目的・ねらい	インド仏教研究に必要不可欠なサンスクリット語原典を読む能力を身につけ、受講生が独自にインド仏教文献の中から大乘論典を読むための基礎的知識を養う。
------------	--

■到達目標	インド仏教研究に必要不可欠なサンスクリット語原典を読む能力を身につけ、受講生が独自にインド仏教文献の中から大乘論典を読むための基礎的知識を養う。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	100	
・レポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	仏教文化演習1（春期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	坪井 剛			シラバスグループ	BD2919
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	「寺社縁起絵巻」を読む
---------	-------------

■授業の概要	古代から中世の日本において「縁起」はその本来の意味から転じ、「寺社の由来やその功德・伝承、及びそれらを記した書物のこと」も指すようになる。特に中世になると、寺院数の増加にともない、多くの「縁起」が編纂され、また絵巻物形式で作られるものも登場するようになる。 こういった「寺社縁起」は、当該寺院の体系的な歴史記録として重要であるが、その一方でその記述には、潤色と見做さざるを得ない記事が入ることにも注意しなければならない。それ故、「寺社縁起」の史料としての取り扱いは慎重に行わなければならないが、そういった記事も含めてなぜ「寺社縁起」が編纂されたのかといった観点から読解していくことも、当該寺社の歴史を考える上で重要であろう。 また、絵巻物形式のものは、「寺社縁起」本文の絵画化という点でも重要だが、当時の寺院に係わる習俗・風習を分析することのできる絵画史料としての側面でも貴重である。絵画部分を読み込むことで、文献史料では伝わることのない、当時の生活様式を知ることにも可能であろう。 以上のような観点から、本授業では「石山寺縁起」を読解し、その作成背景や当時の仏教習俗・風習を考察していく。
--------	--

■授業の目的・ねらい	・中世の文献史料に用いられる用語・文法を正確に理解し、自身で史料読解できる力を養う。 ・絵巻を絵画史料として分析し、そこに見える習俗・風習を解釈する素養を養う。 ・史料から疑問点を見出すとともに、それを解決するための方策をどのように立てるのか、その疑問点が何を意味するのか、といったことを考える習慣を身につける。
------------	---

■到達目標	・「寺社縁起絵巻」を正確に読解する力を身につける。 ・絵巻物の絵画部分を観察し、当時の仏教に係わる習俗・風俗を読み取る力を身につける。 ・史料から導き出された疑問点や論点を自身で考察・解消できるようになる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・リポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	50	
・その他	0	

授業科目	仏教文化演習2（秋期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	坪井 剛		シラバスグループ	BD3039	
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	「寺社縁起絵巻」を読む
---------	-------------

■授業の概要	古代から中世の日本において「縁起」はその本来の意味から転じ、「寺社の由来やその功德・伝承、及びそれらを記した書物のこと」も指すようになる。特に中世になると、寺院数の増加にともない、多くの「縁起」が編纂され、また絵巻物形式で作られるものも登場するようになる。 こういった「寺社縁起」は、当該寺院の体系的な歴史記録として重要であるが、その一方でその記述には、潤色と見做さざるを得ない記事が入ることにも注意しなければならない。それ故、「寺社縁起」の史料としての取り扱いには慎重に行わなければならないが、そういった記事も含めてなぜ「寺社縁起」が編纂されたのかといった観点から読解していくことも、当該寺社の歴史を考える上で重要であろう。 また、絵巻物形式のものは、「寺社縁起」本文の絵画化という点でも重要だが、当時の寺院に係わる習俗・風習を分析することのできる絵画史料としての側面でも貴重である。絵画部分を読み込むことで、文献史料では伝わることのない、当時の生活様式を知ることにも可能であろう。 以上のような観点から、本授業では「春日権現験記絵」を読解し、その作成背景や当時の仏教習俗・風習を考察していく。
--------	---

■授業の目的・ねらい	・中世の文献史料に用いられる用語・文法を正確に理解し、自身で史料読解できる力を養う。 ・絵巻を絵画史料として分析し、そこに見える習俗・風習を解釈する素養を養う。 ・史料から疑問点を見出すとともに、それを解決するための方策をどのように立てるのか、その疑問点が何を意味するのか、といったことを考える習慣を身につける。
------------	---

■到達目標	・「寺社縁起絵巻」を正確に読解する力を身につける。 ・絵巻物の絵画部分を観察し、当時の仏教に係わる習俗・風俗を読み取る力を身につける。 ・史料から導き出された疑問点や論点を自身で考察・解消できるようになる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・レポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	50	
・その他	0	

授業科目	仏教文化演習3（秋期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	三好 俊徳			シラバスグループ	BD3139
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	S

■授業のテーマ	『沙石集』を読む
---------	----------

■授業の概要	仏教文化に関わる文献資料として、日本の鎌倉時代に無住によって撰述された『沙石集』を取り上げる。新編日本古典文学全集本を基本テキストとして、先行研究を参照し、関連資料との本文比較を行いつつ多面的に読み解く。
--------	---

■授業の目的・ねらい	本文を読み解く技能を身につけることを目的とする。また、中世仏教思想と文学との関係を理解することを目指す。
------------	---

■到達目標	辞書だけでなく先行研究を活用しながら、本文を文脈にそくして正確に読解する技能を身につける。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	60	
・レポート試験(SR 履修)	0	レポート試験にて実施する
・授業内発表	40	
・授業内試験	0	授業内での発表や意見交換をもとに総合的に評価する。
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	仏教文化演習4（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	大西 磨希子			シラバスグループ	BD3229
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	『高僧法顕伝』講読
---------	-----------

■授業の概要	仏教文化に関わる文献として、東晋時代にインドを巡礼した法顕の自叙伝『高僧法顕伝』を取り上げ、読んでゆきます。授業では、『大正新脩大蔵経』第51巻を基本テキストとして使用し、長沢和俊訳注『法顕伝・宋雲行紀』（東洋文庫194、平凡社、1971年）を併用しつつ、訓読を行ないます。
--------	--

■授業の目的・ねらい	漢文資料に慣れることを第一の目的とします。具体的には辞書類を活用しながら、漢文資料を書き下し、読解する力を養うことを目指します。
------------	---

■到達目標	辞書類を活用しながら、漢文資料を訓読し、読解することができる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	0%	
・授業内発表	50%	
・授業内試験	50%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	仏教学特論1（集中Ⅱ（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	吹田 隆道			シラバスグループ	BD5162
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	仏伝文学に見るブッダ観の変遷
---------	----------------

■授業の概要	インドの仏教は経典とは別に、釈迦牟尼の生涯、あるいは前世を伝える「仏伝」というジャンルを作り上げた。この「仏伝」はなぜ編纂されたのか、そしてそれは何を伝えようとしたのか。この授業ではパーリ語やサンスクリット語の原典に基づきながら「仏伝」の成立と展開を解説し、そこに伝承されるブッダ観の変遷をとおして、教理・思想史からの側面だけでは理解できない仏教の歴史を見る。
--------	--

■授業の目的・ねらい	この授業を通して、仏教文献学の研究方法を学び、それぞれの研究の方法論を構築できるようにすることを目的とする。
------------	--

■到達目標	1. 仏伝文学の成立となる文献が果たして歴史的人物を伝えるために編纂されたのかという問題意識をもち、既存の学説を再考できる知識を持てるようになる。 2. 仏伝が伝えようとしたものがどのように展開したのかを検証し、仏教教理史からの側面だけでは理解できない人の営みとして求められた仏教を理解し、インド仏教史をより総括的に見られるようになる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	80%	
・レポート試験(SR 履修)	0%	レポート試験にて実施する
・授業内発表	20%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	仏教学特論2（集中Ⅱ（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	林田 康順			シラバスグループ	BD5262
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	法然上人の思想史
---------	----------

■授業の概要	インド・中国・朝鮮を東漸し、さまざまな信仰形態・思想内容へと進展してきた浄土教であるが、わが国における展開と教義の緻密化は他地域の追従を許さないであろう。そうしたわが国において、従来の浄土教信仰への根本的な変革を促したのが、浄土宗祖法然上人であることに異論を差し挟む研究者はいないであろう。源信・永観・覚鑿等と証空・親鸞・一遍等という、いわゆるわが国の全浄土教者の分水嶺に立つ方こそ法然上人であり、明恵・日蓮・道元等のいわゆる旧・新仏教者が、等しく批判の矛先を向けたのが法然上人であることがその事実を端的に物語っている。法然上人の思想を学ぶことは、法然上人や法然上人を宗祖と仰ぐ浄土宗の教義を学ぶことに留まらず、法然上人以前と以後の浄土教、広くは、個々の仏教者と仏教全体が目指している構造を再確認することに他ならないのである。そこで本講義では、法然上人の名著であり、その教義の集大成である『選択本願念仏集』を中心に据えて、いわゆる教義書と呼ばれる法然上人の一連の著作を時系列的に追い、『選択集』に説示される選択本願念仏思想がいかにして成立していったのかについて明らかにし、同時に、その思想の持つ特徴や意義について考察していく。さらに、その選択本願念仏思想が、「一枚起請文」の思想へといかに展開されていったのかについて立体的に検討する。受講生には、関係する論文の内容把握に取り組んでもらい、相互のディスカッションを通じて理解を深めてもらう。
--------	--

■授業の目的・ねらい	①受講生が、インド・中国・日本と東漸してきた浄土教の精華としての選択本願念仏思想成立の意義を受けとめ、それを人に伝えることができる。②受講生が、①の作業を通じて、広く浄土教思想、仏教思想の現代社会における意義を見出し、それを語り得る方策を練ることができる。
------------	---

■到達目標	①受講生が、インド・中国・日本と東漸してきた浄土教の精華としての選択本願念仏思想成立の意義を受けとめ、それを人に伝えることができる。②受講生が、①の作業を通じて、広く浄土教思想、仏教思想の現代社会における意義を見出し、それを語り得る方策を練ることができる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	100%	
・レポート試験(SR 履修)	0%	レポート提出「法然上人の思想史を学んで」3200文字以上
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	教育人間学演習（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	杉本 均	シラバスグループ		HC2139	
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	国際的教育人間学について考える
---------	-----------------

■授業の概要	国境を越えて展開する近年のダイナミックな教育現象を、その連続性・断続性という観点から比較教育的に分析する。生まれてから死ぬまでの教育・学習活動をすべて1つの国で済ませることがむしろ例外的となってきた近年の国際化、グローバル化の状況に対して、わが国を含めた各国の教育やそのシステムにおいて、その互換性、連続性、寛容性を向上させようという対応は、依然として閉鎖的な教育概念が主流であった時代の制度や規則によって大きな障壁に直面している。本特論は、教育や学習者が国境を越えたときに起こる様々な問題について具体的に検討するとともに、それを解決するために各国が取り組んでいる教育的アプローチについて比較考察し、わが国への知見と示唆を導き出す。トピックとしては留学の世界的状況、留学生政策、日本人留学生の特徴、国際教育関係、高校生留学とIB、海外・帰国子女、国際ライセンスの問題を扱い、ケーススタディとしては日本、アメリカ、英国、マレーシア、EU諸国などを取り上げて解説する。
--------	---

■授業の目的・ねらい	教育にとって国境とは何か、国を越えて変わらぬ教育の側面はあるのか、また国家によってどれほど教育が規定されるのかについて理解する。
------------	--

■到達目標	世界と日本の国際教育流動について理解する 世界と日本の民族教育問題について理解する
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	70	
・レポート試験(SR 履修)	0	全体を通してレポートを求めます。
・授業内発表	30	
・授業内試験	0	授業内のレジュメによる報告を求めます。
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	比較教育学演習（集中Ⅰ（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	原 清治			シラバスグループ	HC2361
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	修士論文の作成方法について理解するー国際比較データ分析からー
■授業の概要	修士論文でどのようにデータ分析を行うのか、若年未就労者の国際比較データ分析から考える
■授業の目的・ねらい	本授業では、大学院修士課程レベルの論文作成の手法についての理解を深めることを目的とする。また、調査分析の方法としての質的・量的データの取り扱いについて理解し、もって現代社会の問題を仮説・演繹的に導くことができる力を涵養する。 本講では、若年未就労者の実態をとらえるために現状認識に基づいた質的・量的データ分析を参考に、修士論文を作成するうえで、どのような研究枠組みを立てる必要があるのか、比較の視点から考えてみたい。
■到達目標	修士論文を作成するために必要な先行研究を探ることができる 修士論文を作成するために必要なデータを取り出すことができる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50%	
・レポート試験(SR 履修)	0%	レポート試験にて実施する
・授業内発表	50%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	教育制度学演習（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	山内 乾史	シラバスグループ		HC2429	
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	現代日本における教育制度について
---------	------------------

■授業の概要	学校をめぐる諸問題の実態とその背景にあるメカニズムを理解する 高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し社会の平等化を推進したが、その反面、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生み出してしまった。それを解決するための施策が、ここ数年にわたって、教育改革として次々に展開されている。 本講では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会的に明らかにしていくことを目的とする。その際にキーワードとなるのは、「学歴社会」「学力問題」「いじめ」「教育改革」「教育階層と教育」「若年未就労者と教育」などである。
--------	--

■授業の目的・ねらい	諸外国の教育と比較しながら、近未来の日本の社会と教育のあり方を検討することを通じて、教育社会学的なものの捉え方を把握する能力を身につけること。
------------	---

■到達目標	教育制度論の領域において現在問題になっている、多様な問題について社会的な視角から基礎的な理解を深めることが目的である。具体的には毎回授業プリントに参考文献と課題を掲げる。それらをこなすことによって到達目標に到達できるように計画している。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・レポート試験(SR 履修)	0	レポート試験にて実施する。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50	

授業科目	教育方法学演習（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	篠原 正典			シラバスグループ	HC2529
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	教育方法学と教育実践研究の方法
---------	-----------------

■授業の概要	1 日目は学校教育における学力問題、学習方略と授業づくり、学習意欲、評価方法、知的 好奇心を引き出す授業、教えて考えさせる授業や学習者主体の授業方法に関して学ぶ。 2 日目はe ラーニングを含むオンライン学習の現状と国内における ICT の教育への効果的な 活用法（初等～高等、生涯教育）の現状や具体的な利用法を学ぶ。また、学校教育の情報 化により重要となってきた著作権に関して具体的な場面を取り上げて学ぶ。 3 日目は実践 的な研究を行う場合のデータ収集法と SPSS や Amos を使った統計分析方法を学ぶ。（オン ラインでの学習になりますので、受講者は実際に SPSS を使うことはできません。教員が 行う分析方法及び結果の見方を ZOOM 画面で学ぶことになります。）
--------	--

■授業の目的・ねらい	現在の学校教育における課題や、効果的な教育方法、技術を知識として学ぶ。また、ICT 活 用で重要視されてきた情報モラルの一つである学校教育における著作権を学び、学校現場 で適切な著作物の利用に応用する。さらに、実践的な研究に必要な SPSS や Amos を用い た統計分析の方法及び結果の見方を学ぶ。
------------	--

■到達目標	新学習指導要領で求められている子どもの資質・能力を育成する教育方法、技 術を学校現場で応用できるようになる。また、SPSS を用いた統計分析を修論の データ解析に活用できるようになる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	100	
・レポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	臨床心理学特論1（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	松瀬 喜治			シラバスグループ	HE0119
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	T・S(院)

■授業のテーマ	「臨床心理学」に関する基本的なパラダイムを理解して如何に自分のものとして身につけるかという心理臨床に必要な基本的な課題について学ぶ
---------	---

■授業の概要	（１）臨床心理学的視点とはどのようなものか （２）臨床心理学の歴史的展望 （３）臨床心理士の専門性・独自性
--------	---

■授業の目的・ねらい	臨床心理士としてのアイデンティティの形成に関わる内容のひとつとして「臨床心理学的視点」を明確にすることと、心理臨床の実践・研究活動に求められる「倫理的・道義的責任と秘密保持」の重要性を自覚することをねらいとする。
------------	--

■到達目標	臨床心理士に課せられた倫理的・道義的責任についての自覚を持ち、臨床心理士・心理臨床家のアイデンティティを身につけることが目標となる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・レポート試験(SR 履修)	0	スクーリングの講義演習を通じて、心理臨床家としての基本的な姿勢について得られたものを論述させて評価を行う。 身につけていると査定された度合いによって80点 70点、60点と評価を行う。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	20	
・その他	30	発表ならびにコメントの論理性・独自性・創造性を所持しているかによって5点ずつ加点をして行く。

授業科目	臨床心理学特論2（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	近藤 日出夫			シラバスグループ	HE0239
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	T・S(院)

■授業のテーマ	援助過程に関する諸課題を通して、臨床心理に関する援助専門職としての在り方を考える。
---------	---

■授業の概要	臨床心理の援助専門職として、自分自身の課題にどのように取り組んでいくのか、自らの特性を理解し、それを効果的な援助にいかに関与していくかについて学ぶ。
--------	--

■授業の目的・ねらい	臨床心理学の基礎知識を学ぶだけでなく、自らの特性にも目を向けつつ、いかに援助活動に生かしていったらよいのか、援助活動の実践において出会う様々な困難にどのように対応していったらよいのかなど、他者を援助する際の自らの課題に重点を置きながら学ぶ。
------------	--

■到達目標	1 初心の臨床心理の援助専門職が直面する諸問題と対応を理解している。 2 援助過程を構成する諸段階を理解している。 3 自らの価値観が援助関係にどのような影響を及ぼすのかを理解している。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・レポート試験(SR 履修)	0	到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	授業内における課題発表・ディスカッション内容によって評価する。
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	臨床心理面接特論1（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	牧 剛史			シラバスグループ	HE0319
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	T・S(院)

■授業のテーマ	臨床心理面接の専門性とその実際
---------	-----------------

■授業の概要	カウンセリングや心理療法など、心理臨床実践の方法論としての「臨床心理面接」とはなにかについて理解を深め、臨床心理面接の固有性について学び、臨床心理学の視座から対人援助が行える資質を高めることを目的とする。臨床心理面接によって、臨床心理士は一体どのような援助を行おうとするのか、また臨床心理士はどのような態度で人間に会い向き合おうとするのか、事例を取り上げながら専門性と実際について学ぶ。
--------	--

■授業の目的・ねらい	テキストを精読することで得た知識について、臨床心理面接の実際に即して体験的に理解することを目標とする。特に、臨床心理面接による対人援助のねらい、臨床心理面接を行う者の態度、人間の心へのまなざしなどについて討議を行い、学修することが目的となる。最終時間に、講義の理解度をはかる論述形式の試験を行う。
------------	---

■到達目標	①臨床心理面接で大切なことはなにか、説明することができる。 ②面接者として必要な姿勢について説明することができる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	80	
・レポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	20	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	臨床心理面接特論2（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	藤岡 勲	シラバスグループ		HE0439	
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	T・S(院)

■授業のテーマ	面接（カウンセリング）とは何か・カウンセリングの実際
---------	----------------------------

■授業の概要	臨床心理面接を行うためには、心理援助のプロセスを把握することが重要となる。心理援助におけるセラピストとクライアントのやりとりを実証的に検討するプロセス研究の基本を紹介し、ワークも行う。それらを通し、面接で何が起きているのかを説明できる力の土台も養う。
--------	---

■授業の目的・ねらい	下記を通して、心理援助のプロセスをとらえる基礎的能力を養うことを目的とする ・プロセス研究の基本を説明できるようになる。 ・プロセス研究の知見を活用しながら、面接で何が起きているのかを説明できる能力の基礎を養う。
------------	--

■到達目標	面接の本質をより深く理解すること。
-------	-------------------

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50%	
・レポート試験(SR 履修)	0%	到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。
・授業内発表	50%	
・授業内試験	0%	講義内での積極的な質疑応答を期待する。その受講態度やフィードバックの内容などが、成績評価に反映される。
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	臨床心理査定演習 1（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	中道 泰子			シラバスグループ	HE0529
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	臨床心理アセスメントの理論と実践を学ぶ。
---------	----------------------

■授業の概要	臨床心理アセスメントは、人間理解の一つの方法として非常に重要である。本授業では、臨床心理アセスメントを行う際の基本的な考え方と留意点について学んでいく。中でも、発達検査・知能検査を中心に取り上げ、理論的背景及び施行法、所見の作成から結果のフィードバックについて演習を交えて学び、臨床心理的援助にどのように生かしていくのかを検討する。
--------	--

■授業の目的・ねらい	発達に関する臨床心理査定法の基礎を学び、それらを臨床心理的援助にどう生かすかについて体験的に学ぶ。
------------	---

■到達目標	臨床心理実践の中で、心理アセスメントを生かすことができるようになることを目標とする。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	30	
・授業内試験	50	
・授業内課題	20	
・その他	0	

授業科目	臨床心理査定演習 2（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	松瀬 喜治			シラバスグループ	HE0629
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	臨床心理学的アセスメントの基礎と投映法の修得
---------	------------------------

■授業の概要	臨床心理査定能力の醸成 ロールシャッハ法を臨床に活かす
--------	-----------------------------

■授業の目的・ねらい	臨床心理場面におけるクライアントの心理的理解に供する各種心理検査の施行法・解釈法を修得させ、実践で活用できる水準まで技を高めることを目的とする。一心理臨床家の専門家としての「見立てる能力」の向上
------------	---

■到達目標	各種心理検査の施行法・解釈法を修得させ、実践で活用できる水準まで技を高めることを目的とする。心理臨床家としての「見立て能力」の視点を学ぶ
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・レポート試験(SR 履修)	0	ロールシャッハ法を通じて自己分析を考察する
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	50	
・その他	0	自身が受けた自分のロールシャッハ・テストの結果を、授業の決められて時間内でスムーズに整理をして、解釈までに至るかについて総合評価を行う。

授業科目	臨床心理査定演習3（春期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	近藤 日出夫			シラバスグループ	HE0719
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	ウェクスラー式知能検査の習得
---------	----------------

■授業の概要	多くの心理臨床の現場で用いられているウェクスラー式知能検査の基本的な考え方と留意点を学ぶとともに、検査実施要領、結果の処理法、解釈法、報告書の書き方を学び、実際の臨床場面での活用をめざす。個々の検査項目ごとに検査方法を実習方式で学んだ上で、通しでのウェクスラー式知能検査実施実習を行い、その解釈結果をまとめる。
--------	---

■授業の目的・ねらい	①ウェクスラー式知能検査の歴史的展開、適用対象、測定内容を的確に説明できるようになる。 ②ウェクスラー式知能検査を用いて検査を実施し、検査結果を正確に算出することができるようになる。 ③検査結果の解釈を的確に行い、報告書にまとめることができるようになる。
------------	---

■到達目標	①ウェクスラー式知能検査の歴史的展開、適用対象、測定内容を的確に説明することができる。 ②ウェクスラー式知能検査を用いて検査を実施し、検査結果を正確に算出することができる。 ③検査結果の解釈を的確に行い、報告書にまとめることができる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S履修)	80	
・リポート試験(SR履修)	0	到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。
・授業内発表	20	
・授業内試験	0	授業内における課題発表・ディスカッション内容によって評価する。
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	臨床心理査定演習4（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	近藤 日出夫			シラバスグループ	HE0829
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	TAT（主題統覚検査：Thematic Apperception Test）の習得
---------	---

■授業の概要	心理査定の基本的な考え方と留意点を学ぶとともに、TATの施行法・解釈法を学び、実際の臨床場面での活用をめざす。TATのカードごとに解釈のポイントを学んだ上で、実際にTATを実施し、その検査結果の報告書作成までを行う。
--------	--

■授業の目的・ねらい	①TATの発展、心理検査法としての位置付け、検査内容を的確に説明できるようになる。 ②TAT検査を適正に実施し、検査結果の整理が適確にできるようになる。③結果の解釈を行い、報告書にまとめることができるようになる。
------------	---

■到達目標	①TATの発展、心理検査法としての位置付け、検査内容を的確に説明できる。 ②TAT検査を適正に実施し、検査結果の整理が適確にできる。③結果の解釈を行い、報告書にまとめることができる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S履修)	80	
・レポート試験(SR履修)	0	到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。
・授業内発表	20	
・授業内試験	0	授業内における課題発表・ディスカッション内容によって評価する。
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	臨床心理基礎実習 1（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	1.0
担当者	牧 剛史			シラバスグループ	HE0929
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	（前半）セラピストとしての基本姿勢を学ぶ （後半）臨床心理実践のための基礎的能力を習得する。
---------	--

■授業の概要	「臨床心理基礎実習 1,2」は臨床心理実習の基礎に位置づけられ、講義科目と有機的に関連した構成がされている。1 から 2 までを通して履修することによってカウンセリング、プレイセラピーの基礎を学び、次年度の学内実習、学外実習において事例を担当するだけの実践力を養うことを目的とする。本実習では、感受性訓練や心理臨床実践の基礎訓練を中心に行う。 また、インテーク面接、および臨床心理面接の理論と実際を学ぶ。
--------	--

■授業の目的・ねらい	（前半） 本実習の目的はセラピストとしての基礎トレーニングである。様々な実習を通して、セラピスト（心理臨床家）としての基本姿勢を体験的に学ぶことを主眼とする。 （後半） 本実習は、臨床心理実習の基礎に位置付けられ、講義科目と有機的に関連した構成になっている。①ラポールの形成、②アセスメント、③治療仮説と治療目標、④インフォームド・コンセント、⑤治療契約の締結・治療同盟の構築などについて、ロールプレイを通して体験的に学ぶ。
------------	--

■到達目標	（前半）セラピストとしての基本姿勢とはなにか、自分の体験を元に説明することができる。 （後半）臨床心理実践に必要な基礎的能力の習得を目指す。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	70%	
・レポート試験(SR 履修)	0%	
・授業内発表	30%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	臨床心理基礎実習2（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	1.0
担当者	荒井 真太郎			シラバスグループ	HE1129
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	（前半） 児童期から思春期にかけての心理療法 （後半）傾聴技法（マイクロカウセリング技法）の基礎
---------	---

■授業の概要	（前半）児童期や思春期のクライアントを対象として心理療法を行なう時、成人とは異なるアプローチが必要になる。具体的には遊戯療法や非言語的媒体を通してのアプローチであり、その背景となる理論とともに、臨床事例について取り上げる。また、1日目には対面授業が可能であればプレイルームにてロールプレイを実施し、体験的理解を目指す。（ロールプレイでは、動きやすい服装を着用すること。）オンライン授業となった場合には、ロールプレイを実施せず、プレイルームとプレイセラピィの場面の映像の視聴、またオンライン上での表現療法的アプローチによるグループワークを行う。 （後半）実践活動を行うためには、傾聴技法を実践できることが重要となる。傾聴技法を身につける上では、各技法の関係性を体系的に理解することも求められることから、マイクロカウセリング技法を扱う。具体的には、各技法についての解説を行う。そして、主要な技法のワークを行う。それらを通して、傾聴技法を実践できる力の土台も養う。
--------	--

■授業の目的・ねらい	（前半）児童期・思春期の心理療法に関する理論的理解と体験的理解を目的とする。児童期におけるプレイセラピィのロールプレイ、または非言語的なコミュニケーションによるグループワークにより、体験的理解を目指す。また、思春期・青年期の心理療法に関する理論、技法に触れるとともに、カウンセリングの事例を通して理解を深める。 （後半）下記を通して、傾聴技法を実践できる基礎的能力を養うことを目的とする ・マイクロカウセリング技法について説明できるようになる。 ・マイクロカウセリング技法を展開する能力の基礎を養う。
------------	--

■到達目標	（前半） ①非言語的治療（遊戯療法・象徴的理解）のアプローチを理解する。 ②大人と子どもの心をつなぐチャンネルを把握する。 ③児童・思春期の発達理論について理解する。 （後半） 下記の基礎的能力が養われている ・マイクロカウセリング技法について説明できる。 ・マイクロカウセリング技法を展開する能力の基礎が養われている。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S履修)	70%	
・レポート試験(SR履修)	0%	（前半・後半）授業内試験とする。
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	30%	
・その他	0%	（前半）ロールプレイまたはグループワークへの取り組み、授業内発表など （後半）授業に対する参加姿勢等から総合的に判断する

授業科目	臨床心理実習3（通年（大学院））A クラス_オンライン			単位	1.0
担当者	免田 賢			シラバスグループ	HE1509
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	医療機関、教育機関における心理臨床実習
---------	---------------------

■授業の概要	医療機関、教育機関における心理臨床実習のグループスーパーヴィジョン
--------	-----------------------------------

■授業の目的・ねらい	臨床心理士・公認心理師の必要とされる職域、業務は多岐にわたっている。講義や演習で学んだ知識や技術とならんで、学外の臨床現場における実践的体験は欠かせない。その体験を通して、臨床心理士・公認心理師としてのアイデンティティとその専門性を各自が構築していかなければならない。この授業では、医療機関と教育機関で実際に臨床活動に携わり、現場の担当スタッフ、指導者の指導のもと、医療機関では患者や医療スタッフとのかかわり、教育機関では児童・生徒、保護者や教師とのかかわりを通して、臨床実践の力を付けていくことを目的とする。 ま
------------	---

■到達目標	医療機関・教育機関における臨床心理活動を身をもって体験すること。 グループスーパーヴィジョンを通して自分の心理実習の意味を考えること。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	60	
・授業内試験	0	自分自身の心理実習を振り返り、レポートを作成し、授業で発表する。 また自分の実習に関して話し合いたいことを見つけ、授業内で他の大学院生と分かち合う。
・授業内課題	40	
・その他	0	他の大学院生が発表した内容について、積極的に自分の意見を述べる。

授業科目	心理実践実習（GSV）（通年（大学院））A クラス_オンライン			単位	1.0
担当者	藤岡 勲	シラバスグループ		HE1609	
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	司法・犯罪分野、産業・労働分野、福祉分野の施設での実習
---------	-----------------------------

■授業の概要	援助技術、チームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理・法的義務の理解等について、実習体験のスーパーヴィジョンを行なう。
--------	---

■授業の目的・ねらい	心理職としての知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、学外実習の体験を振り返る。そのような学びを通して、より具体的には、(1) 心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の修得、(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(4) 多職種連携及び地域連携、(5) 心理職としての職業倫理及び法的義務への理解という、(1)～(5)についての基本的な水準の修得を目指す。
------------	---

■到達目標	(1) 心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の修得、(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(4) 多職種連携及び地域連携、(5) 心理職としての職業倫理及び法的義務への理解という、(1)～(5)についての基本的な水準を修得している
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	70	
・授業内試験	0	発表内容並びに授業外学習の成果について、到達度に基づき評価する。
・授業内課題	30	
・その他	0	授業内の学習成果、報告内容によって評価する。

授業科目	家族臨床心理学特論（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	荒井 真太郎			シラバスグループ	HE4339
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	T・S(院)

■授業のテーマ	個人面接と集団・家族・地域支援の実践
---------	--------------------

■授業の概要	親子の問題、家族を心理的にサポートするとはいかなる営みであるのかということを考える。また、個人を対象とする心理療法と、家族などの集団を対象とする援助的関わりを比較して、双方のアプローチの意義や実践上の問題について、事例を通して検討する。
--------	--

■授業の目的・ねらい	親や家族を対象とした心理療法・カウンセリングの重要性、実践上の問題について、事例を通して考察することを目的とする。個人療法における援助的スタンスと、集団や家族療法的なスタンスについて学び、複雑な人間関係が展開する中での援助的関わりについて検討する。
------------	--

■到達目標	親や家族を対象とした心理的援助に関する、特定のアプローチについて理解している。家族や集団に対する支援者の役割についてイメージできる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	70%	
・リポート試験(SR 履修)	0%	授業内試験とする。
・授業内発表	20%	
・授業内試験	0%	1 日目の最初の授業における関連書籍の概要の紹介を発表とする。
・授業内課題	0%	
・その他	10%	

授業科目	学校臨床心理学特論2（春期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	牧 剛史			シラバスグループ	HE6219
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	学校臨床の実際問題について考察する
---------	-------------------

■授業の概要	学校教育現場における心理臨床について概説する。授業では「臨床の視座」と「教育の視座」についての理解を深め、両視座がどのように交わり相互作用が生まれるのかについて考えていく。さらに現在の学校教育現場で現在生じている実際問題（不登校、いじめ、発達障害など）を題材にして、教員とスクールカウンセラーの協働のあり方について考察する。
--------	--

■授業の目的・ねらい	学校内で心理臨床活動をすることの意味や目的を知りスクールカウンセラーには何が求められているのかを知ることを目的とする。さらに「学校」のあり方自体を深めて考えていくことも求める。
------------	--

■到達目標	①各自の「学校イメージ」について理解し、言葉にできる。 ②スクールカウンセラーの役割について説明できる。 ③教員とスクールカウンセラーの協働のポイントについて説明できる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	70%	
・レポート試験(SR 履修)	0%	
・授業内発表	30%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	心理療法特論1（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	免田 賢	シラバスグループ		HE6429	
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	行動論的治療－ペアレントトレーニングの臨床を通して－
---------	----------------------------

■授業の概要	現在、認知・行動系の心理療法がその効果エビデンスとアカウンタビリティという点で、国際標準となっている。本講義では、応用行動分析から行動療法、そして認知行動療法の基礎概念について、理解することを目的とする。その上で、発達障害児のアプローチとして最もエビデンスが高いものとして知られるペアレントトレーニングのアプローチへと実践理解を深める。 特に行動を軸に様々な人間行動とその臨床的応用について、資料を用いて学ぶ。一方的に講義をするのではなく、受講生とともに演習や資料を通して、様々な考えを深めることを目的としている。 現在、受講生が関わっているケースについて、1 例報告できるようにしておいて欲しい。アプローチの方法や介入については、行動的なアプローチ以外でももちろん可。
--------	--

■授業の目的・ねらい	応用行動分析・行動療法の基礎概念を理解できること。 そして、実際の臨床ケースに対して、具体的な治療アプローチができることをねらいとする。 本授業においては、行動理論を通して、日常生活にみる私たちの行動理解が可能となることが第一の目的である。さらに発達に配慮が必要な子どもへの支援へといかすこと、様々な対象者に臨床的応用が可能になることが第二の目的である。特に、行動理論の持つアセスメントの重要性が理解でき、行動理論は他の心理療法とは異なり、信念や思想ではなくクライアントを共同治療者とする方法の体系であること
------------	--

■到達目標	行動理論の特徴とその基礎について理解ができる。 他の心理療法とのちがいに ついて、指摘ができる。 行動理論の対象認識技術について説明ができる。 また、 対象変容技術について、説明することができる。 応用として、ペアレントトレ ーニングを実施する際の面接技術と、面接の進め方について理解ができる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	70	
・レポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	10	
・授業内試験	10	
・授業内課題	10	
・その他	0	

授業科目	心理療法特論2（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	鈴木 康広			シラバスグループ	HE6529
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	箱庭療法について（箱庭療法の理論と実際）
---------	----------------------

■授業の概要	箱庭療法の基礎理論を学ぶ。 受講生自身が箱庭を作成して体験的に体得する。 箱庭症例の事例検討を通して、箱庭療法の実際を学ぶ。
--------	--

■授業の目的・ねらい	無意識からのメッセージとして箱庭に表現されたイメージをどう感得するか、基礎理論を学ぶ。 自身による箱庭作成により体験学習を行い、自らに血肉化することを目指す。
------------	---

■到達目標	将来の心理職の実践に導入し役立てることを目指す。
-------	--------------------------

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	25%	
・レポート試験(SR 履修)	0%	
・授業内発表	50%	
・授業内試験	0%	講義内での積極的な質疑応答を期待する。その受講態度やフィードバックの内容などが、成績評価に反映される。
・授業内課題	25%	
・その他	0%	

授業科目	日本文学研究基礎（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	有田 和臣			シラバスグループ	MA0219
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	日本文学研究の基礎
---------	-----------

■授業の概要	日本語および日本語によって表現された文芸作品や思想文献、あるいは文化事象などを主たる研究対象とし、さらにはその背後にある歴史や社会状況をも考察の対象とします。具体的な授業進行手順としては、先行研究論文を教材とし、その論文の研究の道筋と論理展開を学修することによって、資料・文献の収集方法と扱い方の技能を獲得します。この作業を通して、各自の専門分野における、以後の研究と修士論文作成の基礎となるような知識・視野・技能を獲得することを目標とします。
--------	--

■授業の目的・ねらい	・文芸作品や思想文献、あるいは文化事象などについて、その背後にある歴史や社会状況への理解を深める。 ・研究論文の作法、構成を知悉し、それを公正に読解する姿勢を身につける。 ・先行研究論文の主張を理解し、さらにその根拠を批判する技能を身につける。 ・資料・文献の収集方法とその活用の技能を獲得する。 ・専門分野におけるの研究と論文作成の基礎となる知識・視野を獲得する。
------------	---

■到達目標	日本語学・書道文化・日本文学（古典・近代）の研究方法及び修士論文作成のための基礎技能を習得することを目標とします。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	40	
・授業内発表	30	
・授業内試験	0	
・授業内課題	30	
・その他	0	

授業科目	中国文学研究基礎（春期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	若杉 邦子			シラバスグループ	MA0319
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	中国語学・文学の研究方法について理解する。
---------	-----------------------

■授業の概要	文学専攻において、中国文学系を主専攻として中国語学・文学を研究するにあたり、必要とされる学術的知識や研究上のスキルとは如何なるものであり、また、如何にして身につけるべきものであるか。本科目はその具体的な内容について、講義形式で解説するのみならず、時には中国語文献の収集や整理・分析・総括、討論の展開やレポート作成といった、受講者自身による基礎作業の実践、すなわち演習的アプローチをも取り入れつつ、その修得のための要点を教授することを通じ、研究および修士論文作成に向けての基礎形成をめざすものである。
--------	---

■授業の目的・ねらい	①中国語学・文学を研究するために必要な基礎的知識をひととおり身につけることができる。 ②研究テーマに即して必要な文献（中国語、日本語、その他の言語）を収集するスキルが身につく、さらにはそれらの整理・分析といった作業も適切に行えるようになる。 ③②で収集したデータに基づき、討論を行ったりレポートを作成したりすることが可能となる。
------------	--

■到達目標	①中国語学・文学を研究するために必要な基礎的知識をひととおり身につけることができる。 ②研究テーマに即して必要な文献（中国語、日本語、その他の言語）を収集するスキルが身につく、さらにはそれらの整理・分析といった作業も適切に行えるようになる。 ③②で収集したデータに基づき、討論を行ったりレポートを作成したりすることが可能となる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	30%	
・授業内発表	30%	
・授業内試験	0%	レジュメを用いての報告：20%、討論：10%の割合で評価する。
・授業内課題	40%	
・その他	0%	レジュメ（報告資料）：20%、ミニレポート：20%の割合で評価する。

授業科目	英米文学研究基礎（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	松本 真治			シラバスグループ	MA0419
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	文学専攻英米文学系での研究方法の基礎を学ぶ
---------	-----------------------

■授業の概要	・文学専攻英米文学系の主な研究領域は、英米文学、英語学、英語教育学である。この授業では、それぞれの領域の研究方法を概観した上で、研究論文の実例を取り上げて検討する。 ・また、英米文学研究の中でも、とりわけ馴染みの薄いと思われる英詩に関して、T. S. エリオット（T. S. Eliot）の『荒地』（<i>The Waste Land</i>）を具体例として取り上げて、精読した上で詩の分析を試みる。 ・さらに、受講生自身が修士論文作成のために、どのような研究テーマ、どのような研究計画および研究手法を考えているのかを発表してもらい、受講生および担当者とのディスカッションを通して検討する。
--------	---

■授業の目的・ねらい	・英米文学、英語学、英語教育学領域での研究方法の基礎を学ぶ。 ・英詩の精読および分析方法を学ぶ。 ・受講生各自の修士論文作成のための研究テーマ、研究計画および研究手法を深める。
------------	--

■到達目標	・英米文学、英語学、英語教育学領域での研究方法の基礎を説明することができる。 ・英詩の精読ができる。英詩の分析ができる。 ・受講生各自の修士論文作成のための研究テーマ、研究計画および研究手法を明確に説明できる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	30	各自の修士論文作成のため研究テーマ、研究計画および研究手法について
・授業内試験	0	授業内での発表、ディスカッション
・授業内課題	20	
・その他	0	予習プリントおよび事前学習

授業科目	日本文学演習 1 (秋期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	土佐 朋子			シラバスグループ	MA1539
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	ST

■授業のテーマ	万葉歌の世界とその表現の諸相
---------	----------------

■授業の概要	『万葉集』には、仁徳天皇時代のものとされる歌から、759 年大伴家持による巻軸歌まで、およそ 400 年ほどの間に創作されたと見られる 4516 首が収録されている。そこには、言霊思想に基づく言語呪術の世界と、言語呪術に対する諦念から生じる抒情の世界とが混在しながら、日本文学始発期にあたる言語表現が変遷していく様相を見て取ることができる。 本授業では、演習形式で万葉歌を自力で読む力を養いながら、その表現の変遷の一端を考察してみたい。
--------	---

■授業の目的・ねらい	①万葉集の歌を考察するための方法を身に付ける。 ②万葉の時代の言語表現や発想の特質について、一定の知識を身に付けると同時に、自ら主体的に考察する思考力を養う。 ③万葉歌の表現や発想についての理解を得ることにより、自らが取り組む日本文学作品の表現や発想を相対的に捉える視点を養う。
------------	---

■到達目標	①万葉集の研究方法を実践的に身に付け、自分の力で考察できるようになる。 ②万葉集の時代の文学創作活動について、主体的に考察できるようになる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	40	
・授業内発表	50	発表後に提出する定期試験のレポートを評価する。→授業時間外の学習欄を参照。
・授業内試験	0	発表資料、発表内容を評価する。
・授業内課題	0	
・その他	10	

授業科目	日本文学演習2（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	神原 勇介			シラバスグループ	MA1629
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	『源氏物語』研究のための基礎分析作業を実践する。
---------	--------------------------

■授業の概要	『源氏物語』葵巻を各自分担して、発表する。その際、河内本系諸本の有力伝本である尾州家本を底本として、影印本の翻刻、青表紙本系本文との対校、本文整定、注釈書のポイント整理、口語訳などの基礎的な作業を実践する。注釈書は本来網羅的に見ることが望ましいが、河内本系諸本とかかわりが深い『原中最秘抄』・『紫明抄』・『河海抄』等の古注釈書を重視し、検証したうえで読解に活用する。
--------	---

■授業の目的・ねらい	写本解読から口語訳による本文解釈まで、古典作品研究の基礎的な分析作業を実践する力量をつけてもらう。また、作業の底本として通行の本文系統である青表紙本系諸本ではなく、河内本系の本文を使用することで、古典作品ならではの異本を解釈する読解作業を体験してもらう。
------------	---

■到達目標	古典作品を自力で解釈するための基礎的な分析作業を身につける。
-------	--------------------------------

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	40	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	10	

授業科目	日本文学演習3（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	濱田 泰彦			シラバスグループ	MA1719
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	近世中後期巷説説話集を読む
---------	---------------

■授業の概要	近世においては、仮名草子・浮世草子・読本・草双紙・合巻・滑稽本・人情本といった散文ジャンルが次々と簇生した。一方で、中世以来の説話集の伝統も途絶えなかった。 この授業には、近世の説話集を講読し、その特色と文学的意義について考察したい。とりわけ、多数刊行ないし執筆をみた「××奇談」の書名を有する版本説話集を講読対象とする。
--------	--

■授業の目的・ねらい	近世における「奇談（書）」の位置づけについては、従来怪談方面の研究において注目されてきたほか、近年では飯倉洋一氏は宝暦の書籍目録に「奇談」の項目が立てられている点に着目した論考を発表するに至っている。近世中期以降は、一無散人『〈東国／奇談〉東遊奇談』（寛政13・1801年初春刊）等日本の諸地域の奇景や怪談を蒐集した「奇談」を書名とした半紙本の書物が出版されている。 本授業では、主に中村元恒（撰）・堀内元鑑（筆録）『信濃奇談』（文政12・1829年2月序）を講読する。本作品は、高遠藩の儒学者阪本天山の学
------------	--

■到達目標	広く日本文学作品の精読のための基本的な知識および手法が習得できる。とりわけ、近世文学作品を詳細に検討することにより、近世の文化・風俗が学習できる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	40	
・授業内発表	40	近世期の「奇談」に関する課題に回答する。
・授業内試験	0	『信濃奇談』を分担して講読し、翻刻を行い適宜加注を施す。
・授業内課題	0	
・その他	20	

授業科目	日本文学演習4（秋期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	日高 佳紀			シラバスグループ	MA1739
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	日本近現代文学と出版メディア
---------	----------------

■授業の概要	近代以降の文学において出版メディアは、読者と作品言説が会う場であり、そこでは期待の地平が開かれると同時に、読みの方向性が規制されることになる。また、初発表後の単行本化やアンソロジーへの収録等、メディアが変更された際に生じる問題点も注目すべき要素が考えられよう。 本授業では、近現代日本文学における出版メディアの機能について、具体的事例に対するメディアの特性に関する調査分析と作品の言説分析をもとに、講義と演習を通して考察を進める。
--------	---

■授業の目的・ねらい	・出版メディアが文学に対して果たした機能について理解する。 ・出版流通と文学表現の関わりを関連づける分析方法を理解する。 ・社会文化状況と文学テクストを分析的に接続し検討する力を身につける。
------------	---

■到達目標	メディア研究の方法を身につける。文学作品に対する発表メディアの及ぼした影響を説明できるようになる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	日本語学演習（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	荻原 廣			シラバスグループ	MA1829
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	現代日本語の研究
---------	----------

■授業の概要	現代日本語の中から、各自問題を見つけ調べ、発表する。
--------	----------------------------

■授業の目的・ねらい	現代日本語の研究方法を身につける
------------	------------------

■到達目標	現代日本語について深く考え、また研究できるようになること。
-------	-------------------------------

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	40%	
・授業内発表	60%	授業集終了後 14 日以内に提出すること。
・授業内試験	0%	レジュメをもとに、1 人、3 回発表しなければならない。
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	中国文学演習 1（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	大井 さき			シラバスグループ	MA2529
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	欧陽脩散文選読
---------	---------

■授業の概要	欧陽脩の散文を読みます。 事前配布資料の本文・注釈を熟読し、日本語訳と訓読（もしくはピンイン）を作成したうえで出席してください。授業中に指名します。 ※今年度は欧陽脩の「記」という文体の作品を読んでいく予定です。
--------	--

■授業の目的・ねらい	北宋の人で、唐宋八大家の一人である欧陽脩の散文作品を読むことによって、中国の文語文献の読解力を高めることを目的とします。
------------	--

■到達目標	中国古典文の読解力を向上させると共に、欧陽脩および北宋の文学についての基礎的知識を修得することを到達目標とします。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	50	授業の終了時にレポート課題について説明します。
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	中国文学演習 2（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	楊 韜		シラバスグループ	MA2629	
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	近現代中国の文学と映画
---------	-------------

■授業の概要	この授業では近現代中国における文学と映画の関連性に注目し、アダプテーションの理論と実践を学ぶ。授業では、主に具体的な作品を取り上げた関連論文を選読する。日本語で書かれた論文の場合、内容の要約と批評を行う。中国語で書かれた論文の場合、内容の要約と批評のほか、一部箇所の翻訳実践練習を行う。
--------	---

■授業の目的・ねらい	1) 目的：近現代中国の思想的・社会的歴史背景を学ぶ。アダプテーションの理論と実践を学ぶ。 2) ねらい：受講生が近現代中国の時代変遷および歴史背景の流れを把握するうえ、中国近現代文学史において興味関心を抱く分野や課題を発見し、今後の研究プランにつなぐ。
------------	---

■到達目標	1、アダプテーションの理論と実践に関する基礎的な理解を得る。 2、近現代中国の思想的・社会的歴史背景に関する初歩的な認識を得る。 3、現代中国語で書かれた史資料に対する一定の読解力および翻訳技能を得る。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	40	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	40	
・その他	20	

授業科目	中国文学演習 3（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	瀬邊 啓子			シラバスグループ	MA2929
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	中国新時期文学を読む
---------	------------

■授業の概要	王安憶「牆基」（『鍾山』1981 年第 4 期）は一般的にはあまり知られていない作品であるが、王安憶の作品を分析する上で、非常に重要な作品となっている。この作品は新時期文学における海味小説の最初期の作品であるだけでなく、文化大革命期のことが描かれています。 文革期の様子や上海特有の街・文化の雰囲気を感じつつ、作品への理解と王安憶作品のなかでの位置づけを分析していきます。
--------	--

■授業の目的・ねらい	王安憶は新時期文学においても重要な作家の一人であり、上海や文革をテーマにした作品を多く描いています。 本講義では上海・文革をキーワードに王安憶の作品を読み、作家王安憶の創作について分析を行い、中国当代文学とくに新時期以降の文学への理解を深めることを目的とする。 作家の経歴といった周辺情報、および作品を通して、中国当代文学を考察・分析できるようになる。
------------	--

■到達目標	王安憶作品を中国語で閲読することができ、作品の書かれた当時の状況を踏まえて、作品分析ができるようになる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	40	
・授業内発表	60	講義で扱った内容について、その理解度と自分なりの分析内容による。
・授業内試験	0	講義で扱う作品の翻訳とその内容把握による。
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	中国語学演習（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	劉 赫洋		シラバスグループ	MA2729	
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	漢外詞汇
---------	------

■授業の概要	【汉语词汇】における諸問題を考察する。
--------	---------------------

■授業の目的・ねらい	漢語の特徴について理解を深める。
------------	------------------

■到達目標	中国語の語彙を正しく分析し、意味を理解することができる。
-------	------------------------------

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	40%	
・授業内発表	30%	
・授業内試験	0	
・授業内課題	30%	
・その他	0	

授業科目	中国思想演習（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	鵜飼 光昌			シラバスグループ	MA2829
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	孫綽「喩道論」を読む
---------	------------

■授業の概要	孫綽（310?～367?）は、東晋期の詩人。思想家。支遁・王羲之と同時代。「石に漱（くちす）ぎ流れに枕（まくら）す」（『晋書』孫楚伝）る孫楚は、孫綽の祖父。 授業ではこの孫綽の「喩道論」の思想的特徴を明らかにする。
--------	---

■授業の目的・ねらい	孫綽「喩道論」は中国における儒・仏・道の三教交渉の最も初期の思想家であるとされる。この孫綽の「喩道論」を読み、その思想的特徴をつかむことを目標とする。
------------	---

■到達目標	孫綽の「喩道論」を十分に読解し、孫綽が言う、儒教・老荘・仏教の三教交渉の相を明らかにするとともに、なぜ孫綽が三教を融合しなかったのかを理解することを目標とする。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	英米文学演習1（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	野谷 啓二			シラバスグループ	MA3529
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	T. S.エリオットの批評を読む
---------	------------------

■授業の概要	T. S.エリオット（T. S. Eliot, 1888-1965）は、20 世紀最大の詩人、もしくはもっとも影響力のあった詩人である。『荒地』（1922）をはじめとするモダニズムの代表的作品を発表する一方で、批評活動でも活躍し、詩人論、詩劇論、文化論など多彩である。この授業では、有名な「伝統論」が展開される「伝統と個人の才能」（1919）や、「客観的相関物」について語られる「ハムレット」論（1919）を中心に、エリオットの代表的な評論を読み、その内容を検証する。
--------	--

■授業の目的・ねらい	T. S. エリオットの評論のテキストを原文で正確に理解し、その内容について吟味する。
------------	---

■到達目標	・ T. S. エリオットの評論のテキストを原文で正確に理解することができる。 ・ T. S. エリオットの評論の内容についてコメントすることができる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	50	エリオットの評論の要約、エリオットの評論に対するコメント。
・授業内試験	0	予習に基づくテキストの精読と、テキストに対するコメント。
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	英米文学演習2（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	持留 浩二			シラバスグループ	MA3629
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	本講義では、文学研究における様々なアプローチを解説しながら、具体的な英米文学の作品を取りあげ、実際に受講生に作品解釈を行ってもらう。純粋な客観科学とは違い、文学において作品解釈には唯一の正しい答えがあるわけではない。各作品はその作品を取り巻く時代や地域といった様々なコンテキストに左右されるし、各読者もそれぞれの主観を免れることはできない。作品解釈とは、そういったコンテキストを含めて作品を読み解いていくことであり、読者も含め、作品に描かれている人間性を理解することなのである。
---------	---

■授業の概要	授業では、配布資料を用いて様々な文学批評理論の解説をする。その際、それぞれの批評理論について受講生とディスカッションしながら授業を進めていく。また受講生には、実際に具体的な作品を使って批評理論を使った簡単な批評をしてもらう。
--------	--

■授業の目的・ねらい	作品解釈には様々なアプローチがあるので、まずはその基本的なアプローチについての理解を目指す。その上で、それらのアプローチを用いて、具体的な作品に関して説得力ある作品解釈ができるようになることが目標である。
------------	--

■到達目標	様々な文学批評理論を理解すること。また批評理論を用いて具体的な作品を批評できるようになること。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	70	
・授業内発表	30	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	英語学演習 1 (夏期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	稲永 知世			シラバスグループ	MA3729
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	言語使用 (language use) と階層、職業、性差といった社会的要因の関係に迫る。
---------	---

■授業の概要	私たちが日々使うことば（話し言葉および書き言葉）は、「真空状態にある (in a vacuum)」わけではなく、階層、職業、性差といったさまざまな社会的要因から影響を受ける。Ⅱ (1) 本授業では、社会言語学 (sociolinguistics) に関する英語の文献を精読しながら、私たちが日常生活において使用することばと階層、職業、性差といった社会的要因にはどのような関係があるのかについて考える。Ⅲ (2) この視点に基づいて、上記手法を用いながら、実際の自然談話における言語使用 (映画、ドラマなど) のデータを分析し、社会における言語使用に迫る。
--------	--

■授業の目的・ねらい	(1) 英和辞典・英英辞典を丁寧に引きながら、英文の構造を論理的かつ正確に捉えることにより、英文を正確に理解する能力を身に付ける。Ⅲ (2) 私たちが日常生活において使用することばと階層、職業、性差といった社会的要因にはどのような関係があるのかを考える力を身に付ける。
------------	---

■到達目標	(1) 英和辞典・英英辞典を丁寧に引きながら、英文の構造を論理的かつ正確に捉えることにより、英文を正確に解釈することができるようになる。Ⅲ (2) 私たちが日常生活において使用することばと階層、職業、性差といった社会的要因にはどのような関係があるのかを考察することができる。
-------	--

■成績評価の基準	割合 (%)	備考
・教室試験 (S 履修)	0	
・レポート試験 (SR 履修)	40	
・授業内発表	40	社会言語学 (sociolinguistics) の観点にもとづいて、言語使用 (language use) と階層、職業、性差といった社会的要因の関係を分析し、考察するレポートを書いてもらいます。
・授業内試験	0	テキストをどの程度読んでいるのか、事前配布資料の課題にどの程度取り組んでいるのかに基づいて判断します。
・授業内課題	20	
・その他	0	当日配布資料の課題にどの程度取り組んでいるのかに基づいて判断します。

授業科目	英語学演習 2 (夏期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	橘高 眞一郎			シラバスグループ	MA3829
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	発話の表示的意味と対人的意味について理解する。
---------	-------------------------

■授業の概要	本授業では、人間が言葉を用いて行うコミュニケーションのメカニズムについて講義をする。言葉によるコミュニケーションには必ず話し手と聞き手がいるが、話し手はどのようにして自分の意味を聞き手に伝え、聞き手はどのようにして話し手の意味を理解するのか。そもそも発話の意味とは何なのか。語用論では、これらの問題を、表示的意味と対人的意味の観点から考察し、コミュニケーションのメカニズムの解明を試みている。発話行為理論、協調の原則、丁寧さの原則、関連性理論、ずれの解消理論は、現在までの語用論の成果であるが、これらの理論を学ぶ基礎知識を身につけると共に、実際に談話分析を試みる。
--------	---

■授業の目的・ねらい	英語論文の読解力を向上させるとともに語用論の重要概念の十分な基礎知識を身につける。
------------	---

■到達目標	英語で書かれた論文を正確に読解できるようになるとともに、語用論の重要概念である前提、含意、明意と暗意、発話行為、ポライトネス、関連性などについて十分な基礎知識を身につけ、更にこれらの知識を使って、自ら談話分析を行うことが出来るようになる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	60	
・授業内発表	40	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	漢文学研究（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	浜畑 圭吾			シラバスグループ	MA4529
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	高野参詣記の研究
---------	----------

■授業の概要	弘法大師空海の開いた高野山は、治安三年（1023）の藤原道長による参詣を契機として多くの貴賤を集めた。その記録として漢文で記された参詣記が多く作成されている。本講義では室町期の代表的文化人であった三条西実隆による大永四年（1524）の参詣を記録した『高野真名記』を取り上げる。実隆は漢文による『高野真名記』の他に、仮名で記した『高野参詣日記』も残しており、両書を比較することで、それぞれの特徴について考える。
--------	--

■授業の目的・ねらい	漢文による紀行文の特徴を理解する。
------------	-------------------

■到達目標	漢文による紀行文を理解し、その特徴を述べることができる。
-------	------------------------------

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	60	
・授業内発表	10	
・授業内試験	0	
・授業内課題	20	
・その他	10	

授業科目	異文化接触研究（中国）（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	池田 晋			シラバスグループ	MA4629
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	中国語と中国文化
---------	----------

■授業の概要	「ことば」には、それを話す人々の文化や考え方、ものの見方などが様々な形で反映されるものである。この授業では、「中国語」ということばを通して、中国語母語話者がどのようなものの考え方や出来事の捉え方をしているかを考え、「中国人」や「中国文化」についての理解を深める。
--------	---

■授業の目的・ねらい	・中国語母語話者の考え方、モノの見方について理解を深める。 ・中国の文化について理解する。
------------	---

■到達目標	・中国語母語話者が、どのような考え方や物の見方をしているか、日本人との違いを明確にしながら説明することができる。 ・中国の言語と文化の関わりについて説明することができる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	50	
・その他	0	授業内容の理解度をはかる小テスト、またはミニレポートを実施します。

授業科目	異文化接触研究（英米）（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	外ロック 皆尾 麻弥			シラバスグループ	MA4729
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	日本と英国、米国との相互関係とその歴史
---------	---------------------

■授業の概要	日本と英米両国との関わりの歴史をまずは把握する。その後、両国との交流についていくつかのテーマに分けて考察する。映画等も使用し、日本の英国、米国に対する見方、またその逆からの視点について考察する。
--------	---

■授業の目的・ねらい	本科目では、おもに日本と英国や米国との交流を研究対象とする。日本は、鎖国していた江戸時代にも、長崎の出島を通して西欧とはほそぼそと交流していたが、西欧との本格的で直接的な交流が始まったのは 19 世紀中頃である。それ以来、米国と英国との交流は長く深い。その両国との関係のなかで、日本がどのような影響を受けたか、また両国が日本からどのような影響を受けたかを考察・理解するための講義をおこなう。それを通して、受講生の異文化を理解するための能力を高めることを目的とする。
------------	--

■到達目標	到達目標①日本と英国、米国がどのような歴史を経て交流してきたかを理解する。 ②日本と英国、米国がお互いに持つイメージの変遷について理解する。 ③日本と英国、米国がどのような影響を相互に与え合っているかを理解する。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	60	
・授業内発表	40	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	日本文学研究（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	坂井 健			シラバスグループ	MA6529
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	没理想論争を読む
---------	----------

■授業の概要	森鷗外と坪内逍遙による近代文学史上最大の論争といわれる没理想論争について、初出、再録、あるいは再再録などの異同を確認しながら、現代語訳・注釈をし、問題点を考える。
--------	---

■授業の目的・ねらい	書誌的知識の確認、異同確認との作業の確認、語学的知識の確認、文化的知識の確認、問題設定のための意識の養成。
------------	---

■到達目標	近代の文献の読解のための基礎的知識を獲得する。
-------	-------------------------

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	40	
・授業内発表	30	
・授業内試験	0	
・授業内課題	30	
・その他	0	

授業科目	中国文学研究（夏期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	李 冬木			シラバスグループ	MA6629
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	周樹人から魯迅へ—留学時代を中心に—
---------	--------------------

■授業の概要	本研究は、周樹人の 1902 年から 1909 年に至る日本における留学経験と精神構築が、彼自身が中国近代文学の開拓者（魯迅）に羽化する過程において要となる役割を果たし、彼がひとりの「近代」作家としての知性を完成する準備段階であったと考える。今回の授業は、これまでの研究の基礎の上に、周樹人と日本書から着手し、具体的には進化論の方面から『物競論』、丘浅次郎；国民性思想方面の『支那人気質』、『国民性十論』；個人主義方面から桑木巖翼、煙山専太郎、登張竹風；文学観方面から齋藤信策等の問題について実証研究をすすめることによって、周樹人が明治 30 年代の文化的背景の下で実際に直面した「西洋」を明らかにする。
--------	---

■授業の目的・ねらい	「周樹人から魯迅へ」「天演から進化へ」「『支那人気質』と魯迅」「『国民性十論』と魯迅」「明治時代のニーチェ及びその周辺」「煙山専太郎のスティルネル」「齋藤野の人と魯迅」等の課題を通して、魯迅文学の成立を理解してもらいたいのは本研究の目的である。その目標は近代日中両国の文献を閲読する能力を高め、日本留学期の魯迅と同時代の日本書との関係という側面を通して、文学者魯迅における日・中近代文学交流の実態に迫る。
------------	---

■到達目標	留学生周樹人が明治日本という異文化の中で、いかにひとりの作家として形作られるかという内的精神のメカニズムを明らかにするとともに、近代日中両国の文献を閲読する能力を高める。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	60%	
・授業内発表	20%	
・授業内試験	20%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	歴史学研究基礎1（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	貝 英幸			シラバスグループ	QA0119
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	歴史学研究の意義とその方法
---------	---------------

■授業の概要	本科目では、歴史学研究法の基礎的な事項に関する理解をふりかえるなかで、高度かつ専門的な歴史学研究に携わる者として、自らの研究方法を模索することをねらいとする。 本科目がふりかえりの対象とする事項は、 1) 歴史学および関連諸学の研究対象とその特徴 2) 研究テーマ移り変わりの社会的・学術的背景 3) 歴史学研究の意義と社会的使命 以上の3点とするが、実際の講義においては、各事項の下に課題（小テーマ）を設け、小テーマについての講義と受講生のまとめによる議論を繰り返して理解を深める。
--------	---

■授業の目的・ねらい	1) 「歴史学」という学問体系全体の特徴・特性について理解するとともに、ごく最近の「歴史学」の動向を知る。 *日本の史学研究において「マルクス主義的歴史学（唯物史観）」が果たした意義 2) 過去（歴史）を探究する学問である「歴史学」が研究対象とする分野や領域を理解するとともに、自らの研究の立脚点（立ち位置）を知る。 *その前提として、歴史学研究のごく基本的なメソッド（考え方、まとめ方など） 3) 「歴史学」の（オーソドックスな）研究法を知り、自らが採る研究方法との関係を整理する。 *文献史学の研究手法とその特
------------	--

■到達目標	1)歴史学研究の変遷についてその概要を理解する。 2)歴史学研究の意義、社会的使命について理解する。 3)歴史学研究の主たる方法を理解し、自らの研究方法を模索する。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	7 0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	3 0	
・その他	0	

授業科目	歴史学史料演習1（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	麓 慎一			シラバスグループ	QA1129
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日本近代史における史料の解読と解釈を学ぶ。
---------	-----------------------

■授業の概要	学生が配布された史料を講読し、それを踏まえて史料の取り扱い方やその意義を考察する。
--------	---

■授業の目的・ねらい	本授業の目的とねらいは以下の3点である。 ①日本近代の活字史料を解読する能力を向上させる。 ②日本近代の政治家の史料（初級）を確実に講読できる能力を身に付ける。 ③日本近代の史料収集についての基本的な事柄を既知のものにする。 以上のことを習得し、自らの論文作成を迅速にそして正確にできるようになる。
------------	--

■到達目標	①授業で取りあげる史料を通じて日本近代史の史料の読み方を習得できる。②近年、日本近代史における歴史史料がインターネットで利用できるようになっている現状を踏まえ、それらを有効に自らの歴史研究に利用できるようになる。③活字史料だけでなく、古文書史料（初級）を解読し、その歴史的意義を理解できる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・レポート試験(SR 履修)	0	レポート試験にて実施する。 史料の復刻を指示します。
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	教員の指示に従って史料を講読し、発問に回答する。
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	歴史学史料演習 1 (夏期 (大学院))B クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	山崎 寛士	シラバスグループ		QA1229	
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	『十国春秋』講読
■授業の概要	近世に中国で編纂された五代十国時代に関する史料『十国春秋』を対面授業で講読する。講読にあたっては、史料批判・内容の理解に重点を置く。
■授業の目的・ねらい	漢文史料の正確な読解、および他の史料との対比による史料批判ができるようになる。また史料講読を通じて、当該期の歴史を考察することができるようになる。
■到達目標	①漢文を的確に読み下し文にできる。 ②漢文を正確に現代語訳できる。 ③漢文の内容を理解したうえで、歴史を考察することができる。

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	60	
・レポート試験(SR 履修)	0	レポート試験にて実施する。 授業で学修したことにもとづいて、適格に漢文を書き下し・現代語訳できているかを基準にします。
・授業内発表	40	
・授業内試験	0	しっかりとした事前学修に基づき、発表できているかを基準にします。
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	歴史学史料演習2（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	駒井 匠			シラバスグループ	QA1329
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日本古代史料の読解と解釈
---------	--------------

■授業の概要	史料読解は日本史研究の基礎である。この授業では、古代史を研究する上で必要な史料の読解能力の養成・向上を目指す。史料の読み下しや解釈、考察の方法を学ぶ。
--------	---

■授業の目的・ねらい	この授業では、古代史の主要な史料の読解方法の習得を目指す。日本古代史の史料は基本的に日本漢文になる。そのため辞書の使用は必須である。基本的なことではあるが、辞書の適切な使用が求められる。また史料を用いた考察には、史料から論点を見つける能力や、それと関わり先行研究の調査する技能も必要不可欠である。これらのも習得を目指したい。
------------	--

■到達目標	①辞書を適切に使用し、古代史料を読解できる ②史料を読み、自分の言葉で解釈できる。 ③史料に基づく考察の方法を習得できる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	70	
・レポート試験(SR 履修)	0	レポート試験にて実施する。 史料の読解と考察を主としたレポートを課す。
・授業内発表	30	
・授業内試験	0	事前に配付した史料の予習具合を加味する。
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	歴史学史料演習 2 (夏期 (大学院))B クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	李 昇煒			シラバスグループ	QA1429
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	日本近代史における史料の解読と解釈を学ぶ。
---------	-----------------------

■授業の概要	学生が配布された史料を講読し、それを踏まえて史料の取り扱い方やその意義を考察する。
--------	---

■授業の目的・ねらい	本授業の目的とねらいは以下の3点である。 ①日本近代の活字史料を解読する能力を向上させる。 ②日本近代の政治家の史料(初級～中級)を確実に講読できる能力を身に付ける。 ③日本近代の史料収集についての基本的な事柄を既知のものにする。たとえば、アジア歴史史料センターなどの史料情報を既知のものとし、さらにそれらの利用について注意すべき点を理解する。 以上のことを習得し、自らの論文作成を迅速にそして正確にできるようになる。
------------	--

■到達目標	①授業で取りあげる史料を通じて日本近代史の史料の読み方を習得できる。②近年、日本近代史における歴史史料がインターネットで利用できるようになっている現状を踏まえ、それらを有効に自らの歴史研究に利用できるようになる。③活字史料だけでなく、古文書史料(初級)を解読し、その歴史的意義を理解できる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・レポート試験(SR 履修)	0	レポート試験にて実施する。 史料の復刻を指示します。
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	教員の指示に従って史料を講読し、発問に回答する。
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	歴史学特殊研究3（集中Ⅱ（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	井上 智勝			シラバスグループ	QA1562
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	近世日本宗教史講義－東アジアの中で捉える－
---------	-----------------------

■授業の概要	日本の宗教史を、近世を中心に、同時期の東アジア諸国（中国・ベトナム・朝鮮・琉球）の宗教を視野に入れながら、国家祭祀・神道の歴史的展開・ヒトガミ信仰・祖先祭祀の四つの主題に即して講義します。宗教史の面から、東アジア諸国との比較や、影響・反発という様相をみてゆくことで日本の歴史や文化を考究してゆきます。受講生のみなさんにイメージを結んでいただきやすいよう、写真や図版を投影しながら講義を進めます。なお、この授業は通学課程と共通です。
--------	---

■授業の目的・ねらい	（1）日本の宗教史に対する知識、および東アジアの宗教に対する知識を身に着ける （2）日本の歴史・文化を、日本に自閉して捉えることなく、広い視野から捉える姿勢を養う
------------	---

■到達目標	（1）日本の宗教史に対する知識および東アジアの宗教に対する知識を身に着け、 関連分野での調査・研究に役立てることができるようになる。 （2）日本の歴史・文化を、国際的な視野から捉える姿勢を身に着け、関連分野での 調査・研究に役立てることができるようになる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	60%	
・レポート試験(SR 履修)	0%	第 15 回目に行う理解度の確認（論述形式）の得点の多寡によって評価する。
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	40%	
・その他	0%	各部（1～4 部）の講義後に発する問いに対する回答。全 4 回。

授業科目	歴史文化資料演習 1（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	八木 透			シラバスグループ	QA1629
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	民俗学関連領域の修士論文執筆にむけて
---------	--------------------

■授業の概要	歴史文化領域の研究、特に民俗学の研究方法と民俗資料の種類や扱い方について学ぶ。さらに修士論文執筆に向けての留意点について、受講生全員で考える。
--------	---

■授業の目的・ねらい	歴史資料と民俗資料の基本的な相違について理解するとともに、民俗学における先行研究の整理と研究方法論について学び、さらに民俗資料とは何か、「民俗」とは何かについて、具体的な事例から考える力を養う。
------------	---

■到達目標	歴史学と民俗学の基本的な相違は何か。民俗資料とは何か、「民俗」とは何かについて考える力を修得するとともに、民俗学における論文執筆の方法と留意点を具体的に習得すること。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	50	
・レポート試験(SR 履修)	0	レポート試験にて実施する。
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	50	
・その他	0	

授業科目	歴史文化資料演習 2 (夏期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	堀 大介	シラバスグループ		QA1729	
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	考古資料による歴史の構成
---------	--------------

■授業の概要	考古資料を主体として、文献史料・民俗資料その他の関連資料を参照して、考察を行い、事実を 元にして歴史を構成する方法を学習する。講義の種別が演習であるため、受講生各自に、このよ うな方法を用いて、受講生に発表をしてもらい、考古資料と民俗資料・文献史料など異種の史・ 資料を用いた研究方法を実地に試行してもらう。あわせて、考古資料そのものの観察を行い、そ の知見を提示する方法も体験する。1 日めは教員による時代別・対象別の考古資料による歴史構 成の講義と受講生によるワークショップを一つの講義単位として、数講時を行う。 2 日め、3 日めは小テーマを題材として、受講者による簡単な発表と討議を行う。発表内容は事前に送付した発表課題集から受講生各自が選択し、発表資料を作成し、初日に持参すること。発表時間は各自 30～40 分程度とし、その後、適宜、討議を行う(討議の時間等は受講生の人数によって随時変更する可能性がある)。また、3 日目の最後に各自の発表内容(他の受講生からの質疑応答の内容などを含む)をまとめた小レポートの作成を行う。
--------	---

■授業の目的・ねらい	目的とねらい 1 考古資料を用いて歴史を考察する方法を学修する。 2 考古資料のもつ特性を認識する。 到達目標 1 考古資料を用いた歴史叙述を体験する。 2 考古資料を論じる基礎的な方法を学修する。 成績評価の基準 1 初日のワークショップでの討論(20 点) 2 2、3 日目の発表(60 点)と討論(10 点) 3 3 日目の前日の発表内容に対する小レポート(10 点)
------------	---

■到達目標	1 考古資料を用いた歴史叙述を体験する。 2 考古資料を用いた発表と質疑応答の基礎的な方法を学修する。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	10	
・レポート試験(SR 履修)	0	レポート試験にて実施する
・授業内発表	60	
・授業内試験	0	
・授業内課題	30	
・その他	0	講義に関するワークショップと発表に関する質疑応答

授業科目	歴史文化特殊研究3（集中Ⅱ（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	森 雅秀	シラバスグループ		QA2062	
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	マンダラと密教の仏たち
---------	-------------

■授業の概要	密教の仏やマンダラから、仏教美術の中でもとくに豊穣な世界をもつ密教美術について理解を深めます。密教美術の魅力のひとつは、多種多様な仏たちが現れることです。また、そのような仏たちの集合図であるマンダラも重要な密教美術です。この講義では、初回のイントロダクションをふまえ、前半でマンダラを取り上げます。はじめに、マンダラの持つ意味や機能を新たな視点から考察した上で、日本におけるマンダラの展開をたどります。マンダラを切り口に日本における「聖なる世界」の造形表現を知るとともに、それを生み出した日本文化の土壌にも考察を進めたいと思います。後半は、重要な密教の仏たちをピックアップし、それぞれの具体的な姿や信仰形態、文化史的な意義などを解説します。取り上げる仏は、観音菩薩、不動明王、阿弥陀如来、釈迦如来、弁才天などを予定しています。 開講予定日：9月4日から9月7日
--------	---

■授業の目的・ねらい	密教美術の基礎知識を習得するとともに、日本におけるマンダラの変容と変容や、主要な仏の信仰のあり方などを通して、インドと日本の文化の特質を明らかにする。
------------	---

■到達目標	①密教及び密教美術の基礎的な知識を習得する ②日本におけるマンダラの展開を知ること、日本仏教の特徴を理解する。 ③密教の仏の図像学的研究手法を身につける。 ④仏教の文化を比較文化的な視点で考察する能力を体得する。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S履修)	60%	
・レポート試験(SR履修)	0%	
・授業内発表	0%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	40%	
・その他	0%	

授業科目	歴史学フィールドワーク（秋期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	網島 聖			シラバスグループ	QA4139
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	ST

■授業のテーマ	人文地理学のフィールドワークに関する講義と近隣での地場産業に関するフィールドワーク実習
---------	---

■授業の概要	地域の歴史や地理を正しく理解するためには、フィールドワークを適切に行うことが欠かせない。この講義では、人文地理学のフィールドワークにおいて留意すべき諸注意点について学んだ上で、実地での巡見調査を体験する。まず、初日にはフィールドワークの理念や方法論について概説した上で、各種地図資料や文献資料を用いた事前の下調べについて座学で学ぶ。その上で、2 日目には京都市の代表的地場産業の一つである清水焼をテーマに実地のフィールドワークを体験し、テーマに沿ったフィールドワークの計画と実施について考える。
--------	---

■授業の目的・ねらい	この講義の目的は、人文地理学におけるフィールドワークの理念や方法論について学習することで、フィールドワークの意義を正しく理解し、適切に実施する能力を涵養することにある。これにより、受講者各人がそれぞれの研究課題に対して適切なフィールドワークを計画できるようになることを目指す。したがって、受講者には常に学んだ内容を自身の関心や興味の対象に当てはめて応用する視点を持って参加していただきたい。成績評価については、フィールドワークへの参加状況、およびレポートによって評価する。
------------	--

■到達目標	①人文地理学のフィールドワークにおける理念を理解している。 ②人文地理学のフィールドワークにおける方法を適切に用いることができる。 ③自身の研究課題に対して、適切にフィールドワークを計画し、実施することができる。。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	70%	
・授業内発表	0	レポートの体裁を整え、設題に沿った内容で論理的に記述できているかを評価します。
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	30%	

授業科目	外国語文献研究（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	水田 大紀			シラバスグループ	QA4239
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	ST

■授業のテーマ	英語で書かれた文献を読む
---------	--------------

■授業の概要	イギリス近現代史に関連した英語文献を会読し、そこで注目されているテーマや論点について理解する。本演習では、英語の逐語訳を通じた読解能力の向上とともに、背景となる歴史的知識や専門用語の調べ方など、英語文献を読む際に必要な技術についても説明する。
--------	---

■授業の目的・ねらい	授業の目的は以下のとおりである。 ① 外国語で歴史学の研究文献を読解でき、得られた情報を自身の言葉で摘記・別言・分類できる。 ② 過去の歴史の中で、一つあるいはそれ以上の時代について詳細な知識を得る。 ③ 特定の時代の文献を研究するのに必要な特別な手段について知識を持ち、それを活用することができる。
------------	--

■到達目標	到達目標は以下のとおりである。 ① 歴史学に関連した文献の読解が適切に行えるようになる。 ② 文献の内容から論点を的確に把握できるようになる。 ③ 工具書が適切に使えるようになる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	40	
・授業内発表	60	成績評価は、受講終了後の課題レポートにおいてテキストの内容・論点を体系的に把握できているかなど、講義の理解度を測り、それに講義への意欲的な取り組み（特に授業内発表）を踏まえて、総合的に評価する。
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	歴史情報資源論（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	斎藤 英喜			シラバスグループ	QA4639
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	ST

■授業のテーマ	研究論文をいかに書くか
---------	-------------

■授業の概要	修士論文という「研究論文」を書くための基本的なことを講義します。 斎藤の論文『『日本書紀』注釈史と折口信夫の「出雲」』（論集『日本書紀と出雲観』）をたたき台にして、 ①研究史の検証の仕方 ②資料の読み方 ③論文の達成の対象化、などについて、具体的に見ていきます。 その論文の検証を通して、近年の古代神話、中世神話、近世国学の研究、あるいは近代の神道史、宗教史の研究動向を講義していきます。 後半は、受講生の修士論文の研究計画、執筆した草稿を発表してもらい、その検証を、相互に議論しながら行います。
--------	---

■授業の目的・ねらい	修論論文を書くために「研究論文」とは何か、どのように書くのか、ということを実践的に学んでいくことを目的とします。 あわせて、歴史文化の研究手法、とくに中世神話、中世神楽、あるいは近代の神道史、宗教史の研究動向を展望する視野を持てるようになることをめざします。
------------	--

■到達目標	修士論文を書くための「研究論文」の基本を身に着けること、自己の研究テーマ、対象の資料調査、研究史の検証を行い、論文執筆の準備を進めることが到達目標です。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	30	講義内容と自己の研究テーマとかかわりについてのレポート
・授業内試験	0	修論にむけた研究計画、草稿の発表の準備
・授業内課題	20	
・その他	0	修論の研究計画、草稿の発表

授業科目	社会学理論研究（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	長野 慎一			シラバスグループ	TC0119
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	主体化と権力
---------	--------

■授業の概要	ミシェル・フーコーは、近代における権力の巧妙さを明らかにした哲学者である。フーコーによれば、（自律性が想定される）主体とは権力によって生産されたものである。こうした議論は、社会学理論に大きな影響を与えてきた。本授業では、フーコーを導きの糸として「主体化」という問題を考えたい。 社会学理論において、構造と行為、マクロとミクロ、客観と主観の関係の把握が、重要な論点となってきたが、それらは社会と主体の関係として捉え直すことができる。したがって、フーコー理論を検討することは、社会学理論の課題を確認することにもなるだろう。
--------	---

■授業の目的・ねらい	フーコーの議論や概念（「解剖政治学」「生政治学」「生権力」など）を理解するとともに、主体化論の（社会学理論としての）意義を確認することが本授業の目的となる。
------------	---

■到達目標	フーコーの理論や諸概念を理解するとともに、社会学理論の課題を確認すること。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	70	
・授業内発表	30	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	ソーシャルマネジメント理論研究（春期（大学院））A クラス_対面			単位	2.0
担当者	水上 象吾			シラバスグループ	TC0519
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	市民の希求意識に基づく都市における緑の環境計画
---------	-------------------------

■授業の概要	都市では自然要素が乏しく人々の希求意識が高いことから、緑環境の整備は都市政策において重要な課題である。 本講義は、都市における緑の環境評価を取り上げ、どのように環境を測るのか、環境指標を紹介する。また、都市の居住環境の変化に対し、住民の自然に対する認識や行動がどのように作用するのか、緑の需要や効果について学ぶ。庭園や公園の成り立ちから人と環境の関係を考え、都市という限られた空間において自然を享受していくためにはどうすればよいかを考える。そして、未来の都市ではどのような環境づくりを行っていったらよいかを考える。
--------	--

■授業の目的・ねらい	自治体等の緑の環境計画について知り、現在の都市環境の状態や問題点を把握するとともに、評価や対応方法を考える。 環境の範囲の違い、時系列の影響や環境計画の目的を考慮し、具体的に環境を評価する視点を持つことを目的とする。より望ましい環境づくりのためにはどうしたらよいか、自ら考える力を養い政策へいかせる提案を行う能力を伸ばすことを目標とする。 成績評価については最終講義後に行うレポート課題によって評価する予定である。
------------	---

■到達目標	日頃何気なく見ている身近な環境や地域社会に興味をもち、日常の自分の行動や意識は環境からどのように影響を受けているのか客観視する。現状では何が問題か、より望ましい環境づくりのためにはどのようにしたらよいか、を考える。既存の文献資料を読み解き、考察を深める能力を身につけることを目標とする。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	100	
・授業内発表	0	与えられた課題に関して、「論題が明確か曖昧か」、「構成が論理的か」、「議論（主張がきちんとされているか）」、「リサーチ（適切な資料を見つけ用いているか）」、「創造性（テーマの選択や取り扱いに独自の見解があるか）」による判断を行う。
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	社会学演習 1 (社会文化) (春期 (大学院))A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	大谷 栄一			シラバスグループ	TC3119
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	現代日本の公共空間における宗教の役割——「お寺の社会活動」から考える
---------	------------------------------------

■授業の概要	宗教は個人の内面や心の問題であり、日本国憲法の政教分離の原則により、宗教団体は政治や社会に関わることができない、という「常識」がある。この講義ではそうした「常識」を相対化し、現代日本の公共空間で宗教が果たしている機能や役割、その意味について再検討したい。 その具体的な事例として、現代日本の仏教者や仏教団体、寺院の社会活動（社会問題の解決や人々の生活の質の維持・向上に寄与する活動）を取り上げる。子育て支援、貧困問題、グリーフケア、終活、仏教系アイドルのプロデュース、NPO との協働、女性の活動など、幅広い活動を紹介する。 なお、テキストでは言及されていないが、2022 年 7 月の安倍晋三元首相殺害事件以降に顕著になった「統一教会問題」についても補足的に説明し、「宗教と公共空間」の問題について深く掘り下げて検討する。
--------	--

■授業の目的・ねらい	本講義の目的は、現代日本の公共空間における宗教の役割（宗教の公共的役割）を再検討することである。現代日本の宗教者や宗教団体は個人の私的領域への関与のみならず、社会の公共的領域で積極的な社会参加を行っている。2000 年代以降の日本仏教界ではそうした傾向が強まっている。とりわけ、2011 年の東日本大震災では数多くの仏教者や仏教団体が被災地の復興支援活動に取り組み、そうした活動が社会的にも注目された。 この講義では現代日本の仏教者や仏教団体の社会活動を、「宗教の社会貢献」や「宗教とソーシャル・キャピタル」等
------------	---

■到達目標	(1) 宗教の社会活動（社会貢献活動）について知る。 (2) 宗教の公益性・公共性に関する議論を把握する。 (3) 公共空間における宗教の役割を理解する。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	社会学演習 2（社会情報）（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	大場 吾郎			シラバスグループ	TC3139
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	ST

■授業のテーマ	放送コンテンツの海外展開に関する理論と実践
---------	-----------------------

■授業の概要	メディアのデジタル化ならびにグローバル化は、経済、社会生活、文化、価値観、そしてコミュニケーションのあり方に大きな変化をもたらしてきた。例えば、日本には海外から多種多様な映画やテレビ番組などコンテンツが流入し、一方で近年「クールジャパン」と称されたように、日本のコンテンツも海外諸国で広く受容されている。これらコンテンツを、利益を追求する商業主義的産業と文化創造の担い手という、時として対立する2つの側面から考察することは重要である。講義では、テレビ番組の海外展開を取り上げ、コンテンツの価値を最大化するビジネススキームを考察・理解するとともに、そこでの課題について整理し、今後の方向性を議論・検討してゆく。講義はセミナー形式とし、受講者の主体的な議論参加を促す。
--------	---

■授業の目的・ねらい	メディア研究における理論的枠組みや方法論を理解し、それらを自らの関心領域における調査・研究へ適用させる力を高める。また、講義に実際のコンテンツビジネスの事例や時事問題を多く織り交ぜることで、ボーダーレスな高度情報化時代に生きる人として必要な知識の習得を促す。
------------	--

■到達目標	メディアコンテンツ産業および市場に関して理解を深めるとともに、学術的な視点で考察する。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	100	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	社会学演習 3（共生臨床）（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	柳下 実			シラバスグループ	TC3129
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	ジェンダー視点の大枠を理解する
■授業の概要	ジェンダーや家族などを対象とした論文を読み、ジェンダーの視点から自分の興味があるトピックについて考察できることを目的とする。さまざまな文献を読み、批判的に引用できるようになることも目的の一つである。
■授業の目的・ねらい	1. ジェンダー視点の大枠を理解する 2. 複数の論文を引用しながら、自らが興味のあるトピックについてジェンダーの視点から議論できる 3. さまざまなジェンダーにかんするトピックについての概論的な知識を得る
■到達目標	1. ジェンダー視点の大枠を理解する 2. 論文を端的にまとめられる 3. 論文の内容について批判的にコメントできる

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	70%	
・授業内発表	30%	なお、レポートの作成に当たっては下記の注意事項を守ってください。 【注意事項】 1. 最低段落は最低 5 段落で構成してください。5 段落以上あってもよいですが、以下のような展開としてください。段落 1（導入）では、自分が議論するトピックを紹介し、全体を通してどのような議論を展開するのかを述べてください。段落 2 から段落 4 の各段落では、引用する文献を取り上げ、内容を紹介してください。紹介する際はその文献が自分の議論するトピックとどのような関連があるのか、どういった意義がある文献なのか、 どういった点が不十分なのかという
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	社会学演習 4（社会理論）（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	辰巳 伸知			シラバスグループ	TC3219
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	フランクフルト学派の学説史的位置づけについて
---------	------------------------

■授業の概要	本講義では、フランクフルト学派の社会理論上の特質に迫るために、その学説史的背景について講義する。具体的には、古典的マルクス主義や教条化した「正統」マルクス主義、さらには西欧マルクス主義とフランクフルト学派の關係に言及し、フランクフルト学派の社会理論にウェーバーやフロイト、ニーチェの学説がどのように関与したのか、また二度の大戦とファシズムの猛威がどのように影響を与えたのか、という点について考察する。また、フランクフルト学派第一世代以後の社会理論的展開、特にハーバーマスやホネットが切り開いた新機軸について解説する。
--------	--

■授業の目的・ねらい	フランクフルト学派の批判的社会理論の全体像を可能な限り明らかにすることを目的とする。マルクス主義的社会理論と非マルクス主義的社会理論の關係、ならびにマルクス主義的社会理論内部の対立と問題点、現代社会についてのとらえ方の相違や社会科学の方法論についての対立について明確な理解に達することを目標とする。
------------	---

■到達目標	批判的社会理論の根幹を理解すること。
-------	--------------------

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50%	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	50%	

授業科目	ソーシャルマネジメント演習1（環境）（春期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	林 隆紀			シラバスグループ	TC3519
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	科学技術から環境・エネルギー・資源問題を考える
---------	-------------------------

■授業の概要	大規模気候変動による異常気象災害、エネルギー危機問題、自然循環を外れた廃プラスチック問題、これらはすべて 20 世紀後半に登場した化石資源による化学工業の急発展がキーアイテムとして繋がっている。そのためソーシャルマネジメントを考えるうえで、基本的な自然科学の知識の理解なしには正しい議論が行えない。そこで本講義では基本的な自然科学知識を確認しながら、現代社会が抱えている 3 大環境問題にアプローチする。
--------	--

■授業の目的・ねらい	（1）現代社会における 3 つの重要な環境・エネルギー・資源問題について理解する。 （2）上記 3 つの社会的課題に繋がる基本的な自然科学の理論について理解する。 （3）正確な科学的知識に基づいて上記 3 つの社会的問題の課題を考察する。
------------	---

■到達目標	（1）気候変動問題について、科学的知識を用いて正しく説明できる。 （2）化学熱力学からみたエネルギー保存則と関連づけてエネルギー問題を説明できる。 （3）合成高分子材料の特性を理解してプラスチック問題を説明できる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	40	
・授業内発表	30	スクーリング授業内で学習した内容を踏まえての課題レポートを課す
・授業内試験	0	
・授業内課題	30	
・その他	0	

授業科目	ソーシャルマネジメント演習2（環境）（春期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	堀江 典子			シラバスグループ	TC3729
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	公園から社会を考える
---------	------------

■授業の概要	明治6年に太政官布告によってわが国に「公園」が設置されてから140年あまり、都市公園は近代都市を構成する不可欠な空間として整備され、管理されてきました。私たちの生活の場である都市において、環境保全、レクリエーション、景観形成、防災をはじめさまざまな機能を担う公園は、公共財として、常に社会の動向やニーズとともに存在し、変容しつづけています。 この授業では、都市公園に焦点を当てて、歴史的経緯を振り返ったうえで、近年の動向、管理・運営の現状から、社会が抱えている課題と対応、そして今後の公園の可能性について考えていきます。
--------	---

■授業の目的・ねらい	私たちににとって身近な都市施設である公園が、時代ごとの課題にどのように対応してきているかを知ることを通して、社会が抱える課題と対策について多角的に考える力を養うことを目指します。 成績評価は、スクーリングでの議論への参加状況、及びレポート試験によって評価します。 レポート試験においては、スクーリングにおける学習内容を踏まえたうえで、自らの地域の課題に対しての公園の現状とあり方についての考察を問うこととなりますので、地域の公園を知ることとともに地域課題についての認識を深めておくことも必要です。
------------	--

■到達目標	公園を通して、社会が抱える課題と対策について多角的に考えることができる。
-------	--------------------------------------

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	100	
・授業内発表	0	レポート試験においては、講義内容を理解したうえで、実際に地域の公園について地域課題との関係から考察することを求めます。
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	ソーシャルマネジメント演習3（地域）（夏期（大学院））Aクラス_対面			単位	2.0
担当者	河内 良彰			シラバスグループ	TC3529
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	フィールドワークで学ぶ京都の産業観光
---------	--------------------

■授業の概要	本授業は消費する側からではなく当地の生産する側、住民の視点で京都の観光地を理解する。組織運営の現状や産業文化財の特徴や改善点などを観察して回り、地域社会の変遷や開設によって住民生活の利便性がいかに向上したかなどを把握する。地域社会の産業構造と働き方がいかに変化しているかについて生産者や住民の目線で学修する。
--------	--

■授業の目的・ねらい	フィールドワークを通して、観光産業の担い手に多様な働き方が生まれ、地域住民の生活環境が拡充している現状理解をねらいとする。オーディエンスを意識した発表方法も学び、集団討議に依拠したフィールドワーク力と現代社会を分析する能力を体得することを目指す。
------------	---

■到達目標	【知識・理解の観点】フィールドワークの手法を実践に基づいて体得する。 【思考・判断の観点】調査の信頼性、妥当性、一般性を高める方法を考察する。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	90	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	10	

授業科目	ソーシャルマネジメント演習4（地域）（夏期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	藤井 透			シラバスグループ	TC3829
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	租税は近代国家において重要な役割をはたしている。本授業では、財政学の知見のみならず政治経済学的方法で両者の関係を論じてみたい。
---------	---

■授業の概要	税金といえば、消費税だという理解がメディアを通じて流されている。もちろん、消費税は重要だが、それだけで国の歳入が賄われているわけではもちろんない。授業では、財政の基本的特徴を把握することから、近年のタックス・ヘイブン、グローバル・タックスの構想までを扱う。
--------	--

■授業の目的・ねらい	租税に対する基本的な理解をふまえて、受講者に日本の財政、世界の財政の現状をきちんと把握させる。そのうえで、グローバル化が進む世界経済において、望ましい税制のあり方を考察する。
------------	---

■到達目標	政治経済学的方法により、現代の国家と財政の関係を把握する。そして、グローバル化が進む世界経済での望ましい税制を提示する。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	70	
・授業内発表	30	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	社会調査論（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	山口 洋	シラバスグループ		TC7139	
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	ST

■授業のテーマ	「創造の方法学」
---------	----------

■授業の概要	『創造の方法学』（高根正昭著、講談社新書、1979 年）を輪読して、調査・研究法に対する理解を深める。
--------	---

■授業の目的・ねらい	調査・研究法は、ある分野での調査・研究活動の積み重ねの中で取捨選択され、改良され、人から人へ伝えられて広まり、定着していくものである。調査・研究法のテキストの多くは、そうして出来上がった「完成品」を我々に簡潔に示してくれる。しかしそうした「完成品」に触れるだけで、なぜそうした方法が必要とされるに至ったのかを真に理解することは難しい。そのためには、現在多くのテキストで推奨されている方法論が作られ、広まり、定着するに至った過程を追体験するのがよい。その点、『創造の方法学』（高根正昭著、講談社新書、1979 年
------------	---

■到達目標	テキストの各章の内容のうち、調査・研究とは何か、いかにあるべきかに関する部分を自分なりに理解・消化すること。それをふまえて自分ならどんな調査・研究をするかを考えることが目標です。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	40%	
・授業内発表	60%	授業時間内で作成・発表したレジュメを必要に応じて加筆・修正の上、それをレポートとして提出してもらいます。
・授業内試験	0%	テキストの担当箇所を読み、レジュメを作成し、発表します。これを全て授業時間内に行います。
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	社会福祉学研究基礎Ⅰ（春期（大学院））Aクラス_オンライン			単位	2.0
担当者	小池 桂	シラバスグループ		WB0119	
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	S

■授業のテーマ	社会福祉研究の基礎と基本姿勢を学ぶ
---------	-------------------

■授業の概要	修士論文作成に向けた学修と研究を進めていくための基礎知識、基礎理論を講義し、各自が研究の基本姿勢を形成するよう促し、それに必要な知識・方法を講義する。授業は（１）社会福祉研究の基礎となる社会科学的なものの見方と考え方、（２）研究における理論と実践の関係性、（３）社会福祉研究を進める上で欠くことのできない基本事項と視点、（４）研究計画書作成の基本的視点と方法、研究倫理の四つから構成される。
--------	---

■授業の目的・ねらい	授業のねらいは以下のとおりである。 受講生が社会福祉研究の基礎となり共通となる視点・観点・捉え方を理解し、修士論文の作成に向けた研究力の基礎を形成すること。 （１）受講生が社会福祉研究の基礎となる社会科学的なものの見方・考え方にふれ、とくに現代社会の社会問題をとらえる観点を身につける。 （２）さまざまな先行研究に触れることで、研究における理論と実践の関係性について考察する。 （３）受講生が社会福祉研究を進める上で欠かしてはならない基本事項と観点を学び、社会福祉の基礎を身につける。 （４）受講生が研究計画書
------------	---

■到達目標	到達目標は以下のとおりである。 1．社会福祉研究の基礎となる社会科学的なものの見方・考え方の意義が説明でき、それらの観点から社会問題について説明できるようになる。 2．研究における理論と実践の関係性を理解し、自分の言葉で説明することができる。 3．社会福祉研究を進める上で不可欠な基本事項と観点について説明できるようになる。 4．修士論文作成に向けた研究計画書を作成するための基本事項を理解し、適切な研究計画書が作成できるようになり、かつ研究倫理を厳守できるようになる。 成績評価については、全回を通じて学ん
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	90	
・レポート試験(SR 履修)	0	
・授業内発表	0	
・授業内試験	0	
・授業内課題	10	
・その他	0	

授業科目	乳幼児保育特殊研究（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	中西 さやか			シラバスグループ	WB2119
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	子どもの側から保育を考えるための視点とは
---------	----------------------

■授業の概要	本授業では、子どもの側から保育を考える視点を探究するために、国内外の理論や実践について検討する。具体的には、保育における子どもの経験や学びの「評価（アセスメント）」のあり方を軸として、大人や社会が子どもをとらえる「ものさし」を問い直し、子どもの世界に迫るための方途について考察する。
--------	---

■授業の目的・ねらい	①子どもをとらえる「ものさし」を意識化し、子どもの世界と「ものさし」の距離について考えること ②子どもの側から保育を考えるための視点について考察すること
------------	--

■到達目標	子どもの側から保育を考えるための視点について、自分の言葉で述べることができる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	80	
・授業内発表	20	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	児童福祉特殊研究（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	伊部 恭子			シラバスグループ	WB2229
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	児童福祉研究の視点と方法ー子どもの権利をふまえてー
---------	---------------------------

■授業の概要	社会福祉学において、児童福祉を研究する意味と意義、児童福祉に関する基礎理論、基礎知識を学び、子どもの権利擁護の観点に立脚した児童福祉の課題と可能性を探る。
--------	---

■授業の目的・ねらい	社会福祉学の一つの領域・分野における児童福祉研究において、その固有性ととも、社会福祉学としての共通する基盤について理解を深めることを目指す。また、児童福祉研究の視点、方法、対象等について、基礎理論および先行研究等から学びを深める。
------------	---

■到達目標	社会福祉学の一つの領域・分野における児童福祉研究において、その固有性ととも、社会福祉学としての共通する基盤について理解を深め、説明できるようになる。また、児童福祉研究の視点、方法、対象等について、基礎理論および先行研究等から学びを深め、修士論文等自己の研究に活かすことができるようになる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	障害者福祉特殊研究（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	高木 健志			シラバスグループ	WB2329
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	障害者問題と障害者福祉に関する原理的検討
■授業の概要	障害者問題の発生メカニズムを学び、わが国における障害者福祉政策の問題点と課題について、ノーマライゼーション、リハビリテーションなどの福祉理念をふまえて考察する。
■授業の目的・ねらい	資本制社会の下で発生する障害者問題の特質をふまえ、障害者福祉政策の成立根拠と戦後日本における政策展開を理解する。また、障害者福祉理念および障害概念に関して学ぶ。その上で、現行障害者福祉政策の問題点について概観し、改革課題を検討する。
■到達目標	障害者福祉研究の基礎的理解の上に、現行障害者福祉政策の改革課題を提案する能力の養成

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	80%	
・授業内発表	20%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	高齢者福祉特殊研究（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	新井 康友			シラバスグループ	WB2419
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	高齢者の孤立死（孤独死）に関する研究
---------	--------------------

■授業の概要	今後、一人暮らし高齢者の増加に伴い、ますます孤立死（孤独死）が増加することが予想される。しかし、孤立死（孤独死）問題は研究途上にあり、孤立死（孤独死）の定義も明確になっていない。そのため、孤立死（孤独死）の実態把握もできていない。また、孤立死（孤独死）対策も確立していない。そこで本講義では、高齢者の孤立死（孤独死）の実態と予防対策について検討する。
--------	---

■授業の目的・ねらい	昨今、マスコミ等は孤立死（孤独死）を社会問題として取り扱うようになった。しかし、孤立死（孤独死）の現象や形態だけが話題になることが多い。そこで、本講義では孤立死（孤独死）問題の本質について理解する。
------------	---

■到達目標	孤立死（孤独死）が起きた背景について説明することができる。また、孤立死（孤独死）問題の本質についても説明することができる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	50%	
・授業内発表	50%	レポート試験で講義・演習の理解度を評価する。
・授業内試験	0%	授業内での発表と参加度を評価する。
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	精神保健福祉特殊研究（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	緒方 由紀			シラバスグループ	WB2529
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	精神保健医療福祉における歴史的・政策的課題と実践の展開
---------	-----------------------------

■授業の概要	日本における精神保健福祉活動の成立と歴史的展開について、資料文献を通して政策的課題の検証を行う。さらに、精神保健医療福祉領域における今日的広がりや、事業・組織・機関など多面的サービスの実態をとりあげ、当事者や家族のみならず援助専門職の業務、価値、倫理にも大きな影響を与えていることに着目する。本クラスでは、各自の報告およびディスカッションをととして、実践と政策に対する研究的理解を深める。
--------	--

■授業の目的・ねらい	精神病患者への歴史的理解を踏まえながら、日本の精神保健医療福祉の成立やその後の展開を整理する。さらにそれらを基に医療福祉実践における価値、倫理、知識、技術等について検証を行う。精神医療、精神保健、ソーシャルワークの政策的・実践的整理を行うとともに、日本の専門職制度とソーシャルワーク教育の課題を明らかにする。 成績評価は、各自の報告およびディスカッションなど総合的に判断する。
------------	--

■到達目標	精神保健医療福祉領域に関する基本的視点を法制度や文献資料と共に読み解く力を獲得する。さらに受講生の研究的関心とあわせて、本領域における課題や問題点を掘り下げ、全体での議論を深め、検証する力をつけることを目標とする。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	70%	
・授業内発表	30%	文献資料の読み込み、論点の整理、考察等、レポートとしてのまとまりとあわせて評価する。
・授業内試験	0%	事前課題の報告の内容（レジュメ、発表、討論等）をもとに評価する。
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	医療福祉特殊研究（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	村上 武敏			シラバスグループ	WB2639
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	ST

■授業のテーマ	医療福祉の課題を明らかにする
---------	----------------

■授業の概要	バブル経済崩壊後の景気低迷と経済のグローバル化、そして世界的な新自由主義の潮流のなかで日本においても 1990 年以降、非正規雇用が拡大するなど雇用は著しく不安定化してきている。しかし、これに対処すべき公的年金、医療、介護、生活保護など社会保障制度には不備があり、社会保障制度審議会 1995 年勧告に象徴される社会保障理念の転換と、その後の制度改革により、ますます貧困化に歯止めをかけられない制度になってきている。そのなかで医療ソーシャルワーカーは、特に 1990 年代以降の医療制度改革の影響により、社会科学的な対象認識を見失ってきたように見受けられるのである。 本授業では、特に 1990 年代以降における国民生活と社会保障、そして医療ソーシャルワーカーの実践の変化をとらえつつ、今日における医療福祉の課題を総合的に明らかにしていきたい。
--------	--

■授業の目的・ねらい	医療福祉とは何か、それを医療福祉の歴史、国民生活と社会保障の動向、医療福祉の対象者の生活実態を踏まえて明らかにしつつ、今日における医療福祉の対象および方法をめぐる課題を総合的に明らかにする。
------------	--

■到達目標	・国民生活、社会保障、医療ソーシャルワーカー業務の変化について理解する。 ・医療福祉の対象者の生活実態について理解する。 ・医療福祉の対象と方法について理解を深める。 ・医療福祉の課題を総合的に明らかにする。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	50%	
・授業内発表	30%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	20%	
・その他	0%	

授業科目	地域福祉特殊研究（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	長友 薫輝			シラバスグループ	WB2729
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	地域・貧困・医療をキーワードに、自己責任論に対置する実践と理論に学び、地域医療構想や地域包括ケアシステムの構築、地域共生社会の実現等の政策動向を分析・把握する。
---------	--

■授業の概要	近年、「子どもの貧困」など、一部の「貧困」の表象に関心が高まる一方で、「自己責任」を問う論調が強まりを見せている。貧困だけでなく、疾病に対する自己責任論も同様である。 疾病と貧困が連動していることは以前から知られているにもかかわらず、自己責任論が根強く浸透しているため、疾病と貧困を地域社会から「見えなくさせる」構造をつくっていると思われる。医療に関しては公平性を強く意識する日本社会は、「お金がなければ医療にかかることができない」という事態を容認する社会へと移行していくのであろうか。 このような「問い」から本授業では、①地域社会に広がる貧困と自己責任論のひろがりについて、地域調査（量的・質的調査）をもとに検討を行う。②貧困と疾病の自己責任論について、歴史的な視点から検討し、自己責任論が生み出される社会構造について考える。③疾病の自己責任論に向き合い、地域・自治体で取り組まれている健康権保障・受療権保障を具現化する取り組みに注目し、施策の必然性について分析を加える。④医療と貧困を鍵として、地域づくりをどのように進めることができるのかを考え、各地の実践に学び、貧困と疾病の自己責任論に対置する視点を形成していきたい。
--------	---

■授業の目的・ねらい	①地域社会に表出する「貧困」と自己責任論の実態、その背後にある社会構造を理解する。 ②「貧困」に関係する概念を理解し、地域社会における「医療と貧困」の関連性を捉える視角・視点を理解する。 ③疾病と貧困の連動について、科学的知見に学ぶとともに、階層の固定化の進展などの実態について理解する。 ④疾病や貧困に対する自己責任論が生み出される構造と、医療と貧困を鍵とした地域実践に学ぶ。 ⑤医療と貧困に関する国・自治体の施策の現状を分析し、対策の必然性や新たな施策の創出を提起する。
------------	--

■到達目標	1. 「貧困」と「自己責任論」が生み出される歴史的背景・社会構造について論理的に理解し、説明できるようになる。 2. 疾病と貧困の自己責任論をめぐる歴史的変遷を理解し、説明できるようになる。 3. 国・自治体の医療行政の現状と課題を理解した上で、課題克服には今後どのように自己責任論に対置すべき施策を創出するかを提示することができる。 4. 医療と貧困に関する地域・自治体の実践をふまえて、施策の必然性を論理的に説明できるようになる。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	80	
・授業内発表	20	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	現代社会福祉問題特殊研究（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	加美 嘉史			シラバスグループ	WB2829
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	現代社会の「貧困」と自己責任論ーその構造とソーシャルワークの課題ー
---------	-----------------------------------

■授業の概要	近年は「子どもの貧困」をはじめ、貧困への関心は高まりを見せる一方、貧困を自己責任と捉え、生活保護利用者らをバッシングする論調には根強いものがある。こうした自己責任論の浸透は、社会構造によってつくられる「貧困」を個人とその家族の問題に閉じ込め、「他者化」を促進させている。そして、生存権としての生活保護制度を利用することや「助けて」という声をあげにくくさせている。 このような問題意識から本授業では、 ①現代社会における「貧困」と「自己責任論」の現状について、国際比較調査や地域調査（量的・質的調査）をもとに検討する。 ②「貧困の自己責任論」について歴史的視点から検討を行い、自己責任論が生み出され、浸透していくプロセスを検討する。 ③そのうえで、今日の生活保護や生活困窮者自立支援などで行われている「自立支援」の現状を分析し、政策的言語としての「自立」と「自立支援」の課題を考察することから、現代社会における「自立」と「依存」の関係性を再検討する。 ④そして今日、なぜ生活保護利用者ら貧困状態にある者がバッシングされるのか、「他者化」の概念を手がかりに検討を行う。 ⑤これらの考察をもとに、現代の貧困問題にソーシャルワークは何ができるのか、検討を行う。
--------	---

■授業の目的・ねらい	1. 地域社会に表出する「貧困の自己責任論」の現状、その背後にある構造を理解する。 2. 「貧困」の概念を理解し、現代社会における「貧困」を捉える視角・視点を理解する。 3. 「自立」概念の歴史的変遷から「自立」と「依存」の関係性とその変容を理解する。 4. 生活保護行政及び生活困窮者に対する「自立支援」の検討を通して、生活保護行政及び生活困窮者支援における「自立観」と「自立支援」の現状と課題を理解する。 5. 現代社会に広がる貧困と自己責任論に対するソーシャルワークの価値について理解する。
------------	--

■到達目標	1. 「貧困の自己責任論」が生み出される歴史的背景・構造について理解し、説明できるようになる。 2. 「貧困」の概念を歴史的変遷をふまえて理解し、現代社会における「貧困」を捉える視角・視点を理解する。 3. 「自立」概念を歴史的変遷をふまえて理解し、「自立」と「依存」の関係性がどのように変容したかを説明できるようになる。 4. 今日の政策的言語としての「自立」「自立支援」の現状を理解し、生活保護利用者や生活困窮者の「自立観」と「自立支援」の課題について説明できるようになる。 5. 自己責任論を乗り越えていくために、
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	90	
・授業内発表	10	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	乳幼児保育特殊演習（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	井上 洋平			シラバスグループ	WB3119
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	乳幼児を発達的に理解する視点を土台に子どもが生活する保育や教育の営みを捉えなおす
---------	--

■授業の概要	本演習では、乳幼児を発達的に理解するために必要な視点を、古典的研究と言われるものから近年の研究に至るものまでを取り上げながら学んでいく（グループワークや文献の講読を含む）。特に大人は子どもの視点を思い返すことが難しいことから、具体的な映像や実体験も交えながら、対象となる乳幼児の生活の営み（保育や教育）に接近していく。
--------	---

■授業の目的・ねらい	乳幼児の世界を大人が獲得した思考を基準に評価するのではなく、乳幼児が獲得した思考を基準に理解していくことを目的とする。そのような理解を土台に、乳幼児はもちろん自らが出会う様々な人々に対して向けがちな評価的視点から脱却し、共感的視点へと移行していくことをねらいとする。
------------	---

■到達目標	・大人の視点（自己中心性）を脱却して乳幼児の姿を理解する視点を身につける。 ・発達各時期の特徴を諸側面を関連づけながら整理することができる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	80	
・授業内発表	10	
・授業内試験	0	
・授業内課題	10	
・その他	0	

授業科目	児童福祉特殊演習（春期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	武内 一			シラバスグループ	WB3219
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	子どもの権利を考える
---------	------------

■授業の概要	この演習では、子どもの権利をいくつかの視点から考えてみたいと思います。 一つは子どもの貧困問題から、もう一つは医療現場での子どもの権利確保から、さらに子どもたちにとっての子どもの権利条約の意味について、相互に学びあう中で、子どもの権利擁護のありかた、そこへの確信を深めていけたらと期待しています。
--------	--

■授業の目的・ねらい	最終的には、子どものもつ「ケイパビリティの最適化」を軸に、子どもの権利を理解していけたらと思っています。この言葉も日本語で適切に表現したいのですが、うまくできていません。参加する皆さんの知恵もお借りしたいです。
------------	---

■到達目標	目指すものにあるように、最終的には、子どものもつ「ケイパビリティの最適化」を軸にした相互の理解にあります。議論してお互いの理解を深めて、社会変革へのアイデアを出し合ひましょう。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	障害者福祉特殊演習（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	田中 智子	シラバスグループ		WB3329	
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	障害者・家族の生活問題に関する研究的理解の方法と視点
---------	----------------------------

■授業の概要	障害者・家族の生活問題は多岐にわたり、先行研究においては、ストレス、負担感、障害受容等 様々な側面から把握が試みられてきた。先行研究をレビューすることで、それぞれの視点・方法 の到達点と課題を理解する。そのうえで、生活問題を「貧困」という視点から再整理し、障害者・家族の貧困についての理解をを深める。また、生活問題を把握するための方法論についても理 解を深めることとする。
--------	--

■授業の目的・ねらい	先行研究をもとに「毎回の授業テーマ」で示す諸点の実践的・理論的課題について検討を深める
------------	---

■到達目標	授業の目的で示した各項目について、自らの問題意識に引き付けた独自の考察ができること
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・リポート試験(SR 履修)	70	
・授業内発表	0	
・授業内試験	30	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	高齢者福祉特殊演習（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	朴 光駿	シラバスグループ			WB3439
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	ST

■授業のテーマ	高齢者ケアの思想と介護保険制度
---------	-----------------

■授業の概要	講義は次の3つの部門からなる。(1) 高齢者観とケアの思想、(2) 介護保険制度の理解、(3) 介護システムの比較。高齢者介護制度の基盤である高齢者観を理解すること、介護保険の基本原則を把握すること、そして日本の介護システムを東アジア比較の観点から理解することを目指す。 基本的な内容と問題点、課題を講義したのち、グループに分かれて、提示するテーマについて議論し、グループでの議論の紹介と報告、それを踏まえた、全体的な議論、を行う。この作業を何度か繰り返すとともに、議論の中で提起された問題を掘り下げるために、必要に応じて講義と議論を組み込みながら進める。
--------	--

■授業の目的・ねらい	本演習の目的は次の3点である。①日本介護政策がその基盤としている高齢者観を確認し、介護問題が家族関係、遺産相続問題、訴訟などにもかかわる問題であることを事例をもって理解すること、②日本の介護保険制度の形成過程と現状を分析し、その本質的課題を明確に把握すること、③日本介護保険と韓国介護保険の比較、中国の高齢者介護システムが日本社会にどのような示唆を与えているのかについて、一定の見解を持つこと。 介護保険制度の分析においては、その成立過程を考察し、「介護保険制度の導入は福祉発展といえるのかどうか」という問いを
------------	--

■到達目標	高齢者観と介護政策との関係性、介護問題の社会性を理解すること、介護保険制度にかかわる本質的問題について一定の見解を持つこと、日本の介護保険・介護システムを国際比較の観点から把握すること。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	60%	
・授業内発表	20%	
・授業内試験	0%	
・授業内課題	0%	
・その他	20%	

授業科目	精神保健福祉特殊演習（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	山本 耕平	シラバスグループ		WB3529	
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	精神保健福祉に関する法と政策の批判的検討
---------	----------------------

■授業の概要	本授業は、我が国で生きてきた精神障がい者の歴史をふまえつつ、当事者が“生きる”ことを保障される社会はどうあるべきかを考えることを目指す。 1918 年、日本の精神医学と精神医療の創始者、呉秀三（東京帝国大学教授）は、著書「精神病患者私宅監置ノ実況及び其統計的観察」において「我邦十何万ノ精神病患者ハ実ニ此病ヲ受ケタルノ不幸ノ外ニ、此邦ニ生レタルノ不幸ヲ重ヌルモノト云フベシ」という有名な言葉を残した。我が国が長い間とってきた保安処分、さらに棄民政策は「此病ヲ受ケタルノ不幸」に「此邦ニ生レタルノ不幸」の二重の不幸を背負わせる大きな要因となってきた。 その後、宇都宮病院事件（1983 年）を契機とし、国内外からの我が国の精神科医療への批判や精神衛生法改正要求が生じ精神衛生法が精神保健法に改められたが、この精神保健法制定の意味と、1995 年、障害者基本法の成立のなかで、精神保健法が「精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律」（精神保健福祉法）に改められた意味について考える。ここでは、我が国の精神保健福祉法成立の過程に存在した不幸と、現行の精神保健福祉法の限界について理解して頂きたい。 さらに、池田小学校事件と、事件を通して生じた保安処分発想による心神喪失者等医療観察法制定についてふまえ、医療は、誰の為にあり、福祉はだれの為にあるのかを考える。 最後に、障害者自立支援法（2006 年施行）が、精神障がい者の暮らしにもたらした影響について述べる。
--------	--

■授業の目的・ねらい	到達目標を次の三点とする。 ①我が国の精神病患者（精神障がい者）を対象とする医療と保護の史実を正確に理解する。 ②精神障がい者の人権侵害の事実の背景を理解する。 ③精神保健法、精神保健福祉法の課題を批判的に考察できる。
------------	--

■到達目標	我が国の精神保健福祉の流れと、そこに流れてきた棄民政策の実態を理解するとともに、現行精神保健福祉法を批判的に学習する力を獲得する。大学院講義として、最も大切にすることは、批判的な学習を通し、自己の研究課題と出会うことである。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	50	
・授業内発表	50	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	医療福祉特殊演習（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	眞砂 照美			シラバスグループ	WB3639
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	ST

■授業のテーマ	医療福祉の実践と質的研究
---------	--------------

■授業の概要	新型コロナウイルス感染拡大、度重なる自然災害、震災による原発被害者の問題など医療を巡るさまざまな社会問題が身近に生じている。こうした状況から医療福祉では、疾病を個人の責任にとどめず、社会的な背景や環境要因にも目を向け社会に働きかけるソーシャルワーク専門職の養成が求められている。本演習では、医療福祉を取り巻く課題の背景や社会構造に着目し、MSW の実践例をもとに、あるべき医療ソーシャルワークについて議論する。 また、研究方法の中で、特に質的研究方法の考え方について学び、インタビューデータの分析の仕方の演習を行う。
--------	---

■授業の目的・ねらい	・医療福祉を巡る社会問題と医療ソーシャルワーク実践について議論できる。 ・質的研究方法の考え方について説明できる。 ・インタビューデータ（仮想）をもとに、分析テーマ、分析焦点者、概念生成を行うことができる。
------------	--

■到達目標	*医療福祉の課題の背景や構造について自分の意見を述べることができる *マクロレベルの医療ソーシャルワークについて説明することができる *質的研究方法の概要について説明できる *質的データの分析方法（修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ）を用いて助言を受けながら分析を行うことができる
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	80%	
・授業内発表	20%	スクーリングで学んだことについてレポート課題を課す。
・授業内試験	0%	1人1人が発表することだけでなく、参加メンバーの意見もよく聞いて互いに評価しながら、テーマについて深い議論を行う。また、質的分析を自ら行う。
・授業内課題	0%	
・その他	0%	

授業科目	地域福祉特殊演習（秋期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	藤松 素子			シラバスグループ	WB3739
開講年度	2023	開講学期	後期	履修方法	ST

■授業のテーマ	地域ケアシステムとケア保障の政策かをめぐる課題
---------	-------------------------

■授業の概要	「地域包括ケアシステム」が介護保険制度や医療制度改革のキーワードになっている。しかし、介護保険制度では、対象制限・給付制限が行われ介護保障にはほど遠い改革が行われている。財政事情を持ち出して合理化できるものではない。しかし、現金給付システムの介護保険はもともと介護保障のシステムではなく、その問題点が露呈しているともいえる。また、自助互助共助公助で説明される「地域包括ケアシステム」も地域ケア論として大きな欠陥を持っている。さらに、制度後退を住民でカバーさせようとする「我が事丸ごと地域共生社会」も、本来の共生論とは相容れない矛盾をもっている。こうしたことを踏まえて、現在の制度と改革動向を批判的に捉え直した上で、1. 介護保険制度の構造的問題とケア保障にむけた改革課題をさぐる。2. 地域ケア政策を生活者を中心とした地域ケアシステムから構想する。3. 我が事丸ごとではなく、自治と共生をふまえた地域福祉論をさぐる。
--------	---

■授業の目的・ねらい	現在の制度と改革動向を批判的に分析し、介護保険制度の構造的問題とケア保障に向けた改革課題をつかむ。地域ケア政策を生活者中心の地域ケアシステムとしてつかむ。我が事丸ごと路線ではなく、自治と共生の観点から地域福祉論をさぐるのがねらいである。
------------	--

■到達目標	以下の3点のうち、1つ以上を説明できることを到達目標とする。 1. 介護保険制度の構造的問題を指摘でき、ケア保障に向けた改革課題をいくつか説明できるようになる。 2. 生活者の視点に基づき、地域ケアシステムの構想を提起できるようになる。 3. 我が事・丸ごと路線ではなく、自治と共生の観点から地域福祉のありかたを提起できる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	20	
・授業内発表	80	
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	

授業科目	共生とケアⅠ（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	小林 美津江			シラバスグループ	WB5129
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	あらゆる職業の基礎である高い人権感覚と倫理観を身に付けることをめざす。 人とはどのような存在であるかを考察する。 ケアのあり方はいかにあるべきかを考察する。 共生に必要な政策と社会のあり方等について考察する。
---------	--

■授業の概要	①アメリカの公民権運動と人種主義を概観し差別について考察する。 ②知的障害者のコロニー政策について概観し、資本主義の発展と差別の関係を考察する。 ③知的障害者の自己認識と自立の関係についてスウェーデン社会の取り組みについて検討する。 ④スウェーデンの知る権利の保障体制と社会のありかたを検討する。 ⑤ケアのありかたについて、現在、到達している倫理と価値の中から考察する。 ⑥新自由主義による排除の思想とその影響について考える。 ⑦共生の社会とは何か―民主主義と平等の実現について考察する。 共生とケアのための政策や社会はどうあるべきかを考える。 問題提起を行うので疑問点を出し合い討議の時間を持つ。
--------	---

■授業の目的・ねらい	講義の全体を通して明らかにすること ・研究対象としている対象者は誰か。 ・何のために学ぶのか。 ・研究の論理的な組み立て。 ・人を権利の主体者として捉える。 ・人の自立を支える視点から問題解決を図る。 ・障害者、高齢者、子ども、外国人などそれぞれの専門領域における共生とケアの現状分析と課題。
------------	--

■到達目標	高い人権感覚と倫理観を持つことをめざす。 人の自立について具体的に説明できる。 ケアの実際について技法を知る。 自分の考えを発表し議論することに慣れる。 政治や社会との関連で問題解決の提案ができる。 研究に対する論理的な組み立てができる。
-------	---

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0%	
・レポート試験(SR 履修)	70%	
・授業内発表	10%	
・授業内試験	5%	
・授業内課題	5%	
・その他	10%	

授業科目	福祉の国際比較（夏期（大学院））A クラス_オンライン			単位	2.0
担当者	朴 光駿			シラバスグループ	WB5329
開講年度	2023	開講学期	前期	履修方法	ST

■授業のテーマ	現代社会政策および歴史的事例から、比較社会政策を学ぶ
---------	----------------------------

■授業の概要	社会科学における比較研究方法を説明し、さらに国際比較の方法を学ぶ。 国際比較とは、歴史的比較も含まれるので、歴史的事例という具体的な素材を活用して比較を行うことで、比較対象国及び日本の福祉制度の本質を理解する。比較対象国としては、イギリス・ドイツ・スウェーデンだけでなく、東アジアの状況とも比較を行う。
--------	---

■授業の目的・ねらい	現代福祉国家の福祉制度だけでなく、福祉国家発達上の事例を用いて比較考察を行うことによって、福祉国家・福祉社会のさまざまな姿を理解し、それぞれの福祉国家に内在する普遍的特質が理解できるようにする。
------------	---

■到達目標	・授業内容を踏まえて国際比較研究の意義および方法が理解できる。 ・各自の問題意識に関連した分析視点が獲得できている。
-------	--

■成績評価の基準	割合(%)	備考
・教室試験(S 履修)	0	
・レポート試験(SR 履修)	100	
・授業内発表	0	福祉国家レジーム、ケアラー支援政策についてレポート課題を課す。レポートおよび授業内発表等を評価対象とする。
・授業内試験	0	
・授業内課題	0	
・その他	0	